

町内遺跡発掘調査報告書 V

2003. 3

埼玉県入間郡三芳町教育委員会

はじめに

三芳町は、武蔵野の雑木林と田園風景が随所に広がる緑豊かで、「三富開拓地割遺跡」をはじめとする多くの文化財を伝え残す町です。

昭和40年代までは、畑作中心の純農村地帯として発展してきましたが、都心から30km圏内に位置することから、高度経済成長期からバブル期にかけて、住宅開発や工場・倉庫等の進出によりその姿は急速に変貌を遂げてきました。

このような都市化の進展や経済的な発展の代償として、緑地や文化財が失われてきたのも事実であり、これに対して教育委員会として文化財保護を教育行政の重点施策に位置づけ、先人が培ってきた文化や歴史を将来へ伝え残す努力を続けています。とりわけ、町内に残された22か所の遺跡は、幸いにして国・県の補助を得て記録保存のための発掘調査を実施することができました。

この町内遺跡発掘調査報告書Ⅴには、国庫・県費補助事業として平成10年度から平成14年度の5か年にわたり実施した町内遺跡発掘調査事業の成果が記録されています。

ここに本書が刊行できますことは、ひとえに関係各位のご理解とご協力の賜と厚く御礼申し上げます。

また本書が、郷土の歴史・文化遺産を伝え残し、三芳町がより一層の発展を遂げていくための一助になることを願ってやみません。

三芳町教育委員会
教育長 池上 仁

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡三芳町に所在する三芳町町内遺跡の発掘調査成果の報告書である。三芳町教育委員会が主体となり、国庫補助・県費補助事業として平成10年度から平成14年度までの5ヶ年間に実施した調査の成果をまとめたものである。

2. 本書に収録した発掘（試掘確認）調査は、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」事業として、平成10年度に総額2,073,093円（国庫1,000,000円・県費500,000円・町費573,093円）、平成11年度に総額8,055,667円（国庫4,000,000円・県費2,000,000円・町費2,055,667円）、平成12年度に総額1,519,874円（国庫750,000円・県費375,000円・町費394,874円）、平成13年度に総額1,706,978円（国庫850,000円・県費425,000円・町費431,978円）、平成14年度に総額1,701,539円（国庫850,000円・県費425,000円・町費426,539円）をもって実施したものである。

なお、本書の作成は、平成14年度国庫補助事業「町内遺跡発掘調査」事業の一環として実施した。

3. 本書の編集は柳井章宏が行い、原稿はⅠからⅢ-4-2)を柳井、Ⅲ-4-3)を(有)アルケアーリサーチ中村智美が執筆した。写真撮影は柳井・(有)アルケアーリサーチが分担した。挿図・図版の作成は、大久保 淳・越前谷 理・中村 愛の協力を得た。

4. 南止遺跡C地点・D地点試掘調査出土遺物実測図、遺物出土分布図及び出土石器の記載については、(有)アルケアーリサーチが行った。

5. 本書に掲載した図版等の読み方は、それぞれの図で示した。

6. 本書に掲載した地図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「与野」、「志木」、「川越南部」、「所沢」及び三芳町発行の1/2,500、1/10,000三芳町全図である。

7. 発掘調査及び出土資料の整理・報告にあたり、下記の諸氏・関係機関にご教示・ご指導を賜った。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

会田 明、荒井幹夫、飯田充晴、市丸靖子、尾形則敏、加藤秀之、隈本健介、小出輝雄、笹森健一、高崎直成、土本 医、坪田幹男、早坂廣人、藤波啓容、堀 善之、鍋島直久、柳沢健司、和田晋治、埼玉県文化財保護課、大井町教育委員会、上福岡市教育委員会、富士見市教育委員会、
(有)アルケアーリサーチ

目次

はじめに

例言

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

I. 序章	1
1. 三芳町町内遺跡について	1
2. 三芳町町内遺跡付近の位置と環境	2
1) 地理的位置	2
2) 考古学的環境	3
II. 年度ごとの調査と組織・参加者	5
1. 平成10年度の発掘調査	5
2. 試掘確認調査	5
3. 調査組織と参加者	6
III. 各遺跡の調査	8
1. 本村北遺跡E地点の調査	8
1) 調査の経緯	8
2) 遺跡の概要	8
3) 遺構	10
2. 本村南遺跡第8地点の調査	13
1) 調査の経緯	13
2) 遺跡の概要	13
3) 遺構	14
3. 三芳唐沢遺跡C地点の調査	15
1) 調査の経緯と遺跡の概要	15
4. 南止遺跡C地点・D地点の試掘確認調査	16
1) 調査の経緯	16
2) 遺跡の概要	16
3) 遺物	19

挿図目次

第1図 周辺の地形と遺跡	4
第2図 調査を実施した遺跡	7
第3図 本村北遺跡調査位置図	8
第4図 本村北遺跡E地点全測図	9
第5図 土坑・小穴平面図	11
第6図 井戸実測図	12
第7図 本村南遺跡第8地点調査位置図	13

第8図 本村南遺跡第8地点全測図	14
第9図 井戸実測図	14
第10図 三芳唐沢遺跡C地点調査位置図	15
第11図 三芳唐沢遺跡C地点全測図	15
第12図 南止遺跡調査地点図	16
第13図 南止遺跡遺物分布図	17・18
第14図 南止遺跡出土遺物実測(1)	20
第15図 南止遺跡出土遺物実測(2)	21

表目次

表1 試掘確認調査一覧
表2 本村北遺跡E地点土坑・小穴一覧
表3 南止遺跡遺物観察表

写真図版目次

写真図版1 (本村北遺跡E地点)

調査前
調査風景
土坑確認状況
井戸検出風景
井戸1
井戸2
土坑・小穴検出状況
調査終了

写真図版2 (本村南遺跡第8地点)

調査前
調査風景
井戸セクション
井戸遺物出土状況
井戸完掘
調査終了
トレンチ開掘状況

写真図版3 (三芳唐沢遺跡C地点・南止遺跡試掘)

三芳唐沢遺跡C地点調査前
三芳唐沢遺跡C地点作業風景
三芳唐沢遺跡C地点作業風景

三芳唐沢遺跡C地点調査終了
南止遺跡調査前
南止遺跡土層
南止遺跡遺物出土状況(礫群1)
南止遺跡遺物出土状況(礫群2)
写真図版4(南止遺跡試掘)
南止遺跡遺物出土状況
南止遺跡遺物出土状況
集石
溝
石器集中1
石器集中2
調査風景
調査風景
写真図版5(南止遺跡試掘)
C地点出土遺物
D地点出土遺物
写真図版6(藤久保東遺跡・生出窪遺跡)
藤久保東遺跡調査前
藤久保東遺跡調査風景
藤久保東遺跡調査風景
藤久保東遺跡調査終了
生出窪遺跡調査前
生出窪遺跡焼土跡確認状況
生出窪遺跡焼土跡
生出窪遺跡調査終了
写真図版7(藤久保東遺跡区画整理試掘)
調査前
調査風景
調査風景
調査風景
遺物確認状況
遺物確認状況
遺物確認状況
遺物確認状況
写真図版8(藤久保東遺跡・俣埜遺跡)
藤久保東遺跡調査前
藤久保東遺跡調査風景
藤久保東遺跡調査風景
藤久保東遺跡調査終了
俣埜遺跡調査前
俣埜遺跡調査風景
俣埜遺跡調査風景
俣埜遺跡調査風景
写真図版9(古井戸山遺跡・本村南遺跡)
本村南遺跡調査前
本村南遺跡調査風景
本村南遺跡調査風景
本村南遺跡調査終了
古井戸山遺跡調査前
古井戸山遺跡調査風景
古井戸山遺跡住居跡確認状況
古井戸山遺跡集石確認状況
写真図版10(北原遺跡・南新埜遺跡)
北原遺跡調査前
北原遺跡調査風景
北原遺跡遺物出土状況
北原遺跡出土遺物
北原遺跡調査終了
南新埜遺跡調査前
南新埜遺跡調査風景
南新埜遺跡調査風景
南新埜遺跡調査終了

I. 序 章

1. 三芳町町内遺跡について

三芳町は、埼玉県南西部の荒川右岸台地上に位置し、西方には霊峰富士と秩父、多摩の山並みを遠望する平野地帯である。

西方約50km先の青梅市付近を扇頂として広がる武蔵野台地の北東部にあたり、台地縁辺から切り込む開析谷により僅かな起伏をもつものの、そのほとんどが関東ローム層に厚く覆われ、ほぼ平坦な地形を呈する。

三芳町は、上述のように関東ローム層の厚く堆積した台地が占め、特に町の西部域は河川も少なく、広々とした台地が続いている。近年の発掘調査により、西部域の埋没谷周辺に旧石器時代から縄文時代早期の遺跡の存在が明らかになりつつあるが、谷の埋没以降、西部域の集落形成は、江戸時代の新田開発が行われるまで待たねばならなかったようである。町西部域で行われた新田開発の中でも、元禄7年から9年(1694～96)に川越藩主柳沢吉保の命により行われた三富地区の畑作新田開拓地（三芳町大字上富、所沢市中富・下富）は、埼玉県指定旧跡「三富開拓地割遺跡」として指定されており、今なお整然とした屋敷地と畑地と雑木林の区画が残され、武蔵野の典型的な新田開拓の面影をとどめる地域として有名である。

一方、町東部域は、より武蔵野台地の縁辺に近く、柳瀬川を始めとする荒川の沖積面に向かう数条の河川や開析谷が台地を切り込むように存在する。これらの河川に沿って古くから開発が進み、西部域とは異なった様相を呈し、原始・古代の遺跡も多く存在する。

近年まで三芳地域は自然環境に適応しつつ純農村地帯として緩やかな発展を遂げてきたが、都心より僅か30km圏内にあることから都市化の波を強く受け、急激な変化をしつつある。町の東隣を走る東武東上線と地下鉄有楽町線の相互乗り入れ、関越自動車道路の貫通と所沢インターチェンジの設置等の交通手段の改善は、工場・倉庫等の企業進出や個人住宅・アパート・マンション等の住宅建設を促進させる結果となった。

三芳町には、現在22か所の埋蔵文化財包蔵地が知られるが、当然のことながら開発行為は埋蔵文化財包蔵地内にも及び、破壊の危機にさらされてきている。すでにそのうちの一部は住宅開発により煙滅してしまったものもある。三芳町では、このような状況に対処すべく、文化財保護法改正後、特に昭和51年度以降埋蔵文化財の保護、とりわけ記録保存のための発掘調査に力を注いできた。しかし、このような発掘調査は蚕食的・個別的調査であることが多く、十分な時間と費用を費やし調査が実施でき得ぬことも多く、また、開発者との間で調査費用・期間等について問題が生じることも少なくなかった。

町では、このような問題を少しでも解消すべく国庫・県費の補助を得て、「三芳町町東部遺跡群発掘調査事業」(昭和53年度～昭和57年度)、「三芳町町内遺跡群発掘調査事業」(昭和58年度～平成元年度)、「三芳町町内遺跡発掘調査事業」(平成2年度～)として実施してきた。遺跡範囲確認調査の実施により調査期間、調査方法、調査費用の積算等が容易になったことと、利益を目的としない個人住宅開発等の費用負担の問題を解消できたことは本事業の成果といえる。

本事業により、平成10年度は発掘調査3件と試掘確認調査2件、平成11年度は試掘確認調査4件、平成12年度は試掘確認調査2件、平成13年度は試掘確認調査3件、平成14年度は1件の試掘確認調査を実施すると共に、本報告書を刊行した。

今回の報告は、平成10年度から平成14年度までの5ヶ年の成果の記録報告である。

2. 三芳町町内遺跡付近の位置と環境

1) 地理的位置

埼玉県入間郡三芳町は、埼玉県の西南部に位置し、東に志木市、富士見市、南東に新座市、南西に所沢市、北に大井町、川越市と接する。面積は15.3km²、人口は約36,000人である。かつては畑作を中心とする純農村地帯として緩やかな発展を遂げてきたが、首都圏30km圏内に位置することから、高度経済成長を機に住宅開発が進められるとともに、恵まれた交通条件を背景に、工場や物流施設の開発が進み、昭和40年以降急激に人口が増加した。

三芳町の位置する武蔵野台地は、関東平野の西南部に位置し、東西約40km、南北約30kmに及ぶ大規模な台地として知られる。武蔵野台地の西北部は加治丘陵（阿須山丘陵）と入間川が境となり、北東部は荒川の沖積低地で終る。西南部は、多摩川の沖積低地が境となり、南東部は東京湾岸のいわゆる下町低地である。

武蔵野台地は、奥多摩の山地より流れ出る多摩川の開析扇状地であるといわれ、その扇頂にあたる青梅付近で標高約180mである。立川で約85m、所沢で約60m、三芳付近で約40mと東に向かうに従い次第に低下し、武蔵野台地の東端部では標高約20mとなり荒川低地へ至る。台地の東端部には、沖積地に向かう幾つかの谷が形成されており急崖を成している。

三芳町はこの武蔵野台地の北東縁辺部に近い部分に位置しており、町西部域は標高約45mで、ほとんど平坦な地形を呈する。一方、標高30mの等高線を境とする町東部域には、荒川とその支流である柳瀬川や江川などが形成する東方の沖積地（荒川低地）に向かう谷が現在5条存在し、やや複雑な地形を呈している。

この5条の谷を南からみていくと、まず、三芳町と新座市・志木市を大きく割している谷が荒川の支流・多摩川の名残川とも呼ばれる柳瀬川によって形成された谷である。この谷の両岸には崖面からの湧水により小さな谷戸が数多く形成されており、現在でも湧水地が点在している。

次に、通称唐沢堀と呼ばれる堀割を通す谷が、川越街道西側（現在の三芳町役場付近）に谷頭をもち、大字竹間沢字新開と大字藤久保字唐沢の間に形成されている。以前は谷頭付近に湧水があったと聞かれるが、現在は工場等が建設され埋め立てられている。この谷は三芳町内において比高差約5m程の緩傾斜をもって開析し、富士見市関沢字八ヶ上付近（東武東上線みずほ台駅と鶴瀬駅の間）で江川を流す谷に合流する。

唐沢堀の谷と合流する江川を流す谷は、大字藤久保字東の川越街道付近に谷頭をもち、東方に延びている。この谷は、上述の唐沢堀を流す谷と富士見市字八ヶ上付近で合流し、富士見江川となって谷幅を広げ富士見市水子字打越付近で沖積面に至る。

大字藤久保字富士塚付近の富士見市境にも緩やかな谷が入り込んでいる。この谷は、通称権平川を流す谷で湧水源は富士見市域に存在し、谷頭部分が三芳町内域にごく僅かに入り込んでいるのみである。最後に、三芳町と大井町の行政界付近に緩い谷が形成されている。これは武蔵野台地の特徴といえる末無川の一つである砂川を流す谷である。砂川の流れる狭山丘陵に端を発するが、三芳町まで流れは至らず所沢市中富付近で消滅する。三芳町付近の砂川の谷は、現在雨水排水用の堀割として存在する。

上述のように三芳町には、現在において台地を開析する5条の谷が形成されていることを確認することができるが、柳瀬川の谷を除く他の4条の谷はいずれも緩やかな開析である。しかし、これらの谷が延びる富士見市域の武蔵野台地北東端部付近では、いずれも谷底を深くし、台地を切り裂くような急崖を呈する。

2) 考古学的環境

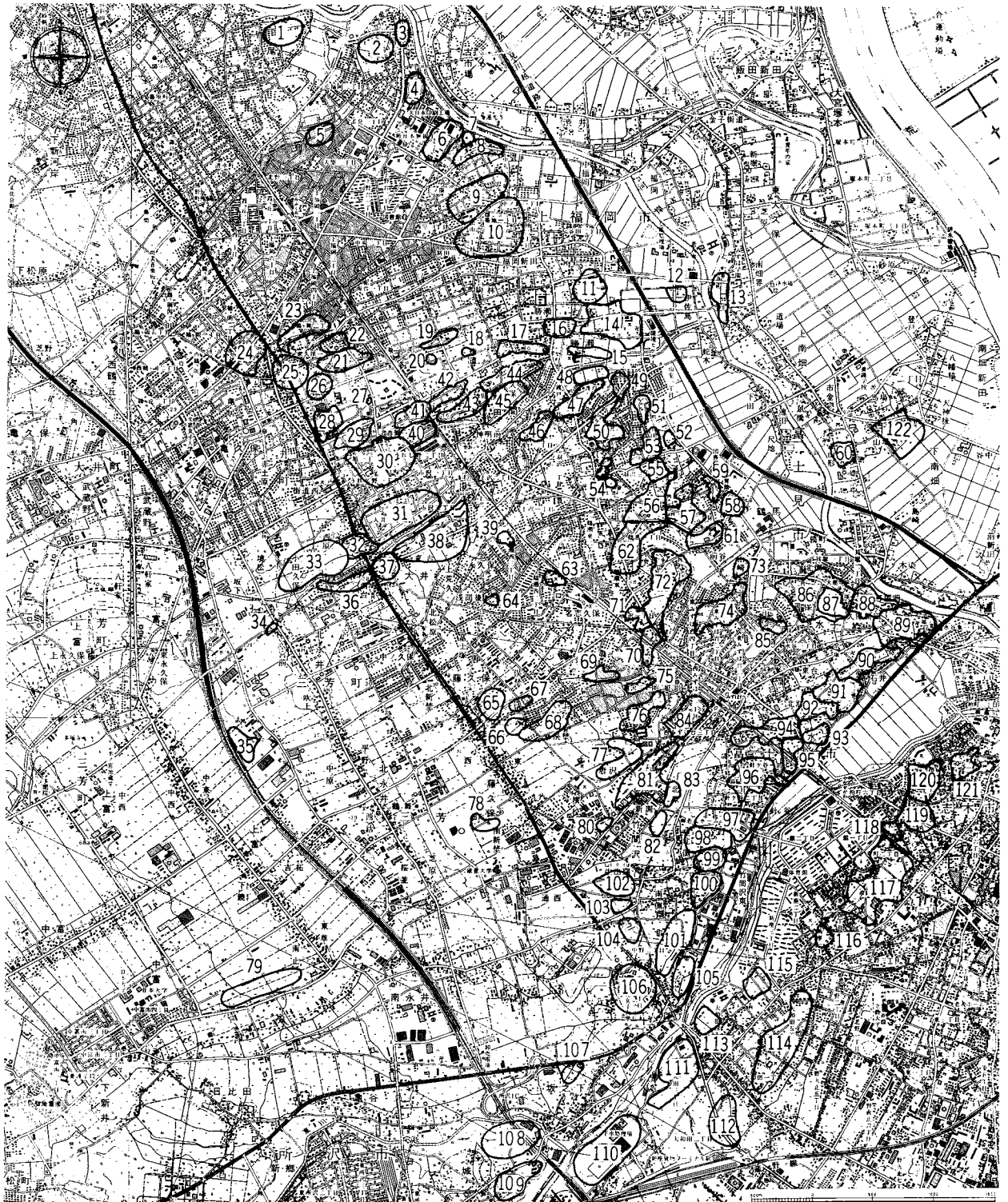
三芳町には、現在22ヶ所の遺跡が知られる。このうち1ヶ所は埼玉県指定旧跡「三富開拓地割遺跡」であり、江戸時代中期の武蔵野における新田開発の村落形態を今なおとどめている所である。残りの全ては、原始・古代を中心とした埋蔵文化財を包蔵する遺跡である。原始・古代の遺跡の多くは谷を臨む台地上に位置するため、地形的条件により三芳町では町東部に遺跡の集中が見られる。

柳瀬川を臨む台地上には、遺跡が連続して見られる。第1図に示した範囲で数えるだけでも左岸に13ヶ所、右岸に3ヶ所の遺跡が知られる。柳瀬川に面した遺跡のうち、左岸に位置する三芳町内には上流より古井戸山遺跡(101)、本村南遺跡(100)、本村北遺跡(99)、北側遺跡(98)が知られる。本村南遺跡は、かつて弥生時代中期末葉(宮ノ台式)の土器が出土したことで知られる遺跡である。近年の発掘調査により宮ノ台式の住居跡や弥生時代後期の方形周溝墓が検出され、発掘された弥生時代住居跡は17軒、弥生時代中期末葉から後期末葉を中心とする集落遺跡として位置付けられる。隣接する古井戸山遺跡からは、旧石器時代の石器集中や礫群、縄文時代前期の住居跡、弥生時代後期の住居跡が検出されていると共に、縄文時代早期～後期、弥生時代中期～後期、奈良・平安時代、中世の遺物が認められ、旧石器時代から弥生時代を中心としながらも連続と続く複合遺跡である。本村北遺跡からは、縄文時代前期の住居跡2軒、古墳時代後期の住居跡1軒、奈良・平安時代の住居跡が6軒検出されている。調査面積は少ないが、縄文から奈良・平安期の集落遺跡と捉えられる。北に隣接する北側遺跡は、現在のところ発掘調査による遺構や遺物の検出は無いが、弥生時代後期の底部穿孔壺形土器の出土が知られ、弥生時代から平安時代を中心とする遺跡と推定される。下流の南通遺跡(97)は、区画整理事業に伴い発掘調査が行われ、弥生時代中期後半から古墳時代前期初頭までの住居跡312軒や環濠が発見され、大規模な集落の存在がうかがわれる。また、北通遺跡(96)からも、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡79軒や方形周溝墓9基が発見されている。上流の新座No.32遺跡(106)、右岸に位置する城山遺跡(120)、西原大塚遺跡(117)も弥生時代の遺跡として知られる。このように柳瀬川下流域には弥生時代の遺跡が集中していることが分かる。これは、比較的広い沖積地の発達や、台地縁辺からの湧水により小さな谷戸が数多く存在することが、初期の水稻耕作の生産基盤として適していたためと考えられる。

唐沢堀を流す谷に沿って、右岸に新開遺跡(81)・生出窪遺跡(103)が存在する。新開遺跡は昭和51年から調査が進められ、旧石器時代キャンプ跡や平安時代の窯跡、工房跡が発見されている。生出窪遺跡からは縄文時代の集石や磨製石斧が出土している。また、対岸の三芳唐沢遺跡(77)、やや下った位置に松ノ木遺跡(84)が存在し旧石器時代のキャンプ跡や縄文時代の集落跡が発見されている。

江川最上流部付近には、藤久保東遺跡(65)、藤久保東第二遺跡(66)、藤久保東第三遺跡(67)、俣埜遺跡(68)の旧石器時代を中心とした4つの遺跡が存在し、藤久保東遺跡群とも呼ばれている。右岸の俣埜遺跡では過去数回の発掘調査が行われ、旧石器時代VI層～IV層にかけての石器、縄文時代早期の炉穴、縄文時代中期から後期の住居跡・平安時代の窯跡などが発見されている。同じく右岸の藤久保東第二遺跡からは、Ib期からIc期の局部磨製石斧を含む石器群が検出されている。左岸には、藤久保東遺跡、藤久保東第三遺跡が存在する。共に旧石器時代X層からIV層にかけての遺物・遺構が検出されており、藤久保東遺跡からは、対岸に存在する藤久保東第二遺跡とはほぼ同時期の局部磨製石斧2点が検出され、その関連が注目される。江川下流域(富士見市域)には、左岸に本目遺跡(69)、隆起線文土器を出土した八ヶ上遺跡(70)縄文前期・奈良時代の集落跡が発見された殿山遺跡(61)が存在する。右岸には、旧石や縄文前期の貝塚で知られる打越遺跡(74)や山崎遺跡(73)が存在する。

このように、三芳付近には武蔵野台地縁辺部より切り込む開析谷が多く存在しており、これらに面した高台には必ずと言ってよいほど遺跡が集中して存在している。



- 1寺尾 2川崎 3宅地添 4ハケ 5北野 6上福岡貝塚 7権現山墳墓群 8滝 9長宮 10松山 11鷲森 12伊佐島 13上内手
14宮廻 15谷田 16鍛冶海戸 17稻荷前 18市街道 19稻荷久保北 20稻荷久保南 21東久保 22江川東 23鶴ヶ舞 24亀居
25江川南 26東久保西 27南武蔵野 28東中学校西 29東久保南 30西ノ原 31本村 32大井氏館跡 33小田久保 34宮前
35中東 36西台 37大井戸上 38東台 39上沢 40中沢前 41中沢 42外記塚 43神明後 44苗間東久保 45浄禅寺 46渡戸
47東渡戸 48薬師前 49貝塚山 50羽沢 51大谷 52山室谷 53山室 54羽沢前 55平塚 56宮脇 57黒貝戸 58宿 59折戸
60山形 61殿山 62谷津 63権平沢 64浅間後 65藤久保東 66藤久保東第二 67藤久保東第三 68俣埜 69本目
70八ヶ上 71新田 72御庵 73山崎 74打越 75節沢 76関沢 77三芳唐沢 78南新埜 79南止 80新開第二 81新開 82北原
83北原第二 84松ノ木 85松山 86冰川前 87水子貝塚 88東前 89観音前 90神明 91東台 92正網 93正網南 94栗谷ツ
95別所 96北通 97南通 98北側 99本村北 100本村南 101古井戸山 102生出窪北 103生出窪 104生出窪南
105新座 No.42 106新座No.32 107甲館出 108城 109滝之城 110下宿内山 111新座No.5 112新座No.48 113新座No.44
114新座No.4 115新座No.46 116新座No.38 117西原大塚 118新邸 119中道 120城山 121中野 122難波田氏館跡

第1図 周辺の地形と遺跡 (1/50,000)

Ⅱ. 年度ごとの調査と組織・参加者

平成10年度から平成14年度までの5ヶ年間に、町内遺跡発掘調査事業において調査を実施した遺跡は8遺跡・15地点である。この内、平成10年度は発掘調査3ヶ所と試掘確認調査2ヶ所、平成11年度は試掘確認調査4ヶ所、平成12年度は試掘確認調査2ヶ所、平成13年度は試掘確認調査3ヶ所、平成14年度は試掘確認調査1ヶ所である。年度ごとの調査を整理すると、以下のとおりとなる。

1. 発掘調査

1) 本村北遺跡E地点

所在地：三芳町大字竹間沢765番地1

調査原因：個人住宅建設

調査期間：平成10年4月23日～6月17日

調査面積：578m²

開発者：

2) 本村南遺跡第8地点

所在地：三芳町大字竹間沢864番地3

調査原因：個人住宅敷地盛土

調査期間：平成10年9月17日～10月22日

調査面積：800m²

開発者：

3) 三芳唐沢遺跡C地点

所在地：三芳町大字藤久保429番地10

調査原因：個人住宅建設

調査期間：平成10年12月14日～12月16日

調査面積：877m²

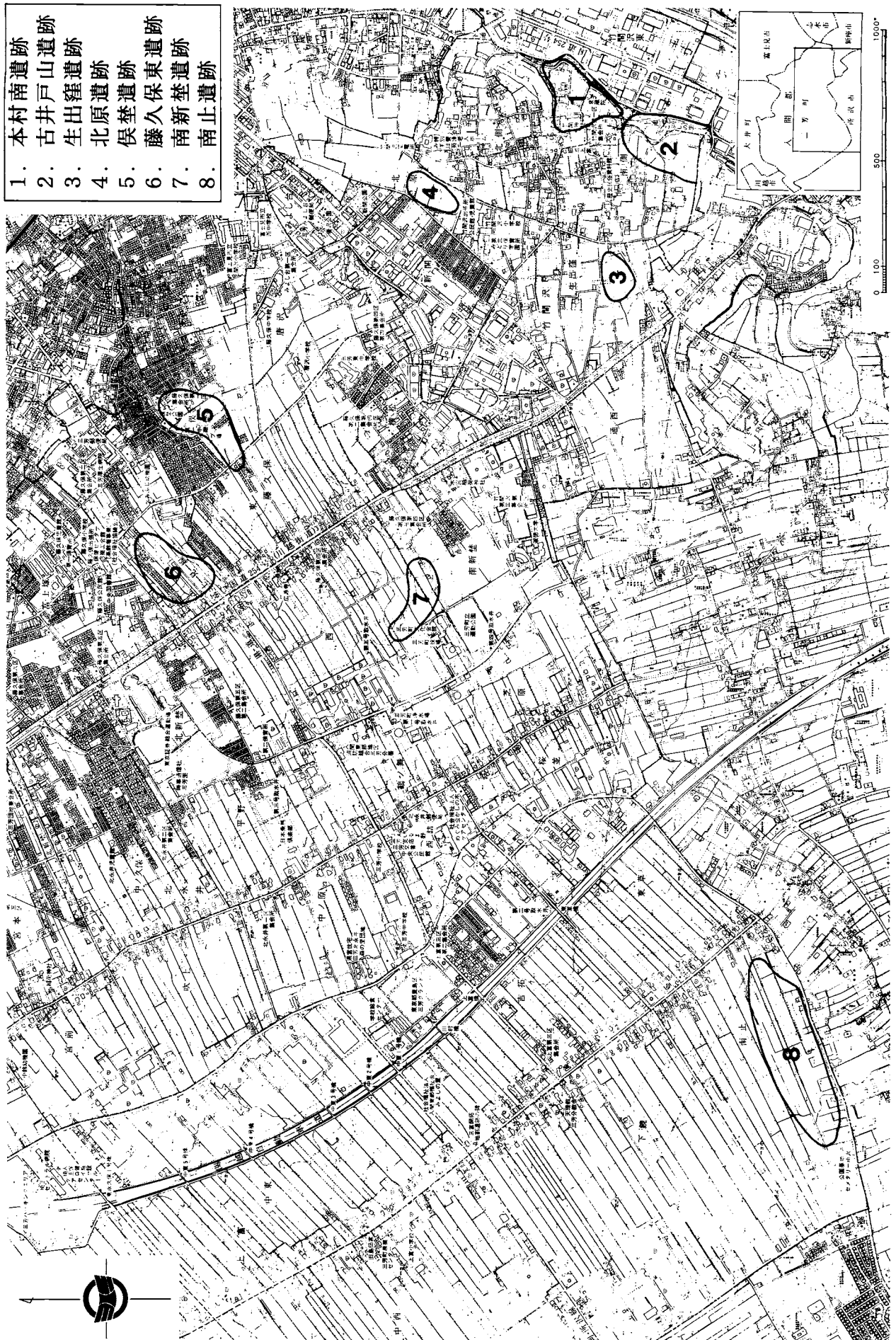
開発者：

2. 試掘確認調査

平成10年度から平成14年度に実施した試掘確認調査は、以下の表のとおりである。

遺跡名称	調査原因	調査地番	調査期間	面積	確認内容
藤久保東遺跡	個人住宅	藤久保803-1,12	10.4.21~4.28	749m ²	遺物・遺構なし
生出窪遺跡	個人住宅	竹間沢170-1	10.6.30~7.9	548m ²	時期不明焼土跡 遺物なし・盛土保存
藤久保東遺跡	区画整理 道路予定地	藤久保802他	11.4.21~12.16	2,898m ²	旧石器X層～IV層石 器集中7ヶ所他 受託発掘調査実施
藤久保東遺跡	農地改良	藤久保757-1他	11.6.14~7.6	3,250m ²	遺物・遺構なし
俣埜遺跡	宅地分譲	藤久保353-2他	11.10.4~10.29	1,879m ²	縄文時代集石1ヶ所 受託発掘調査実施
古井戸山遺跡	駐車場造成	竹間沢948-3,949	12.1.18~2.18	906m ²	縄文集石6,弥生住居 跡4,塚1基 塚は現状他盛土保存
南止遺跡C地点	農地改良	上富702他	12.4.12~6.16	18,555m ²	旧石器IV層石器,縄 文集石1,盛土保存
本村南遺跡	駐車場造成	竹間沢862-1	13.2.19	418m ²	遺物・遺構なし
南止遺跡D地点	農地改良	上富692-1他	13.4.12~6.2	17,895m ²	旧石器Ⅲ層石器 盛土保存
北原遺跡	個人住宅	竹間沢537-9	13.5.25	416m ²	旧石器IV層ナイフ1, 盛土保存
南新埜遺跡	駐車場造成	藤久保1082-1他	13.11.6~12.3	8,301m ²	旧石器碎片2,焼石 盛土保存
南止遺跡E地点	農地改良	上富704-2他	14.11.5~12.2	18,990m ²	旧石器IV層石器 盛土保存

表1 試掘確認調査一覧



第2図 調査を実施した遺跡 (1/20,000)

3. 調査組織と参加者

調査主体者 三芳町教育委員会

教育長 富田 信男（平成11年2月まで）
池上 仁（平成11年3月より）

調査事務局 生涯学習課

生涯学習課長 新井 義幸
同 課長補佐 石畑 一男（平成11年3月まで）
〃 加藤 宗良（平成11年4月より平成14年3月まで）
〃 鈴木 義雄（平成14年4月より）

文化財保護係長 松本 富雄（平成11年3月まで）
鈴木 義雄（平成11年4月より）

同 主任 福田 豊子（平成11年3月まで）

同 主事 茂木喜代子（平成11年4月～平成12年3月まで）

調査担当 文化財保護係長 松本 富雄（平成11年3月まで）

〃 主任 柳井 章宏（平成14年3月まで）

主事補 大久保 淳（平成14年4月から）

〃 中村 愛（平成14年4月から）

平成10年度発掘調査・整理作業参加者

調査員：小林由孝

協力員：相葉孝之、加藤みゆき、上岡福藏、川出裕子、坂本榮子、菅原 正、太刀川美樹、
田中一吉、内藤明美、西村恵子、塙 和男、廣田ふじみ、藤井喜恵子、古市政子、黛佳代子、
宮田 守、安田あけみ、山崎正子、山之内和人、山本ふみ子

平成11年度発掘調査・整理作業参加者

協力員：相葉孝之、熱田菊栄、稲葉正子、内山茂男、小木吉久、上岡福藏、五條秀一、坂本榮子、
末吉孝子、田中一吉、内藤明美、西村恵子、野上吉樹、塙 和男、廣田ふじみ、黛佳代子、
宮田 守、山崎正子、山下 基、山之内和人、山本ふみ子

平成12年度発掘調査・整理作業参加者

調査員：石津 薫

協力員：相葉孝之、熱田菊栄、稲葉正子、内山茂男、小木吉久、上岡福藏、田中一吉、
永堀八重子、西村恵子、野上吉樹、八田香能子、塙 和男、廣田ふじみ、兵頭祐子、黛佳代子、
宮田 守、山之内和人

平成13年度発掘調査・整理作業参加者

調査員：石津 薫、大久保 淳

協力員：相葉孝之、熱田菊栄、稲葉正子、小木吉久、上岡福藏、内山茂男、田中一吉、田村早苗、
永堀八重子、西村恵子、野上吉樹、八田香能子、塙 和男、廣田ふじみ、増澤勝実、黛佳代子、
山田あつ子、山之内和人

平成14年度発掘調査・整理作業参加者

協力員：浅利武男、稲葉正子、内山茂男、大久保和恵、岡野次雄、小木吉久、小平輝男、
斉藤幸喜、須藤ケイ、田村早苗、中森信一、永堀八重子、西村恵子、根本一志、根本治雄、野上吉樹、
八田香能子、福田悦子、黛佳代子、山田あつ子

Ⅲ. 各遺跡の調査

1. 本村北遺跡E地点の調査

1) 調査の経緯

本村北遺跡E地点は、埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢字北側700番地6に位置する。調査は、個人住宅建設に先立つ埋蔵文化財記録保存調査として、495㎡を実施した。

本遺跡は、過去4回にわたる発掘調査が行われている。昭和55年度に、遺跡の南端部付近のA地点で発掘調査が実施されており、縄文時代の遺物包含層・土壌・古墳時代の大型住居跡・奈良時代の住居跡・平安時代の住居跡等が検出されている。平成3年度から4年度にかけて、遺跡の東部付近のB地点で発掘調査が行われ、縄文時代前期の住居跡1軒および奈良時代の住居跡2軒が検出されている。平成9年度には、C地点とD地点の発掘調査が実施され、C地点では縄文時代中期の集石1基、D地点では平安時代の住居跡2軒が検出されている。

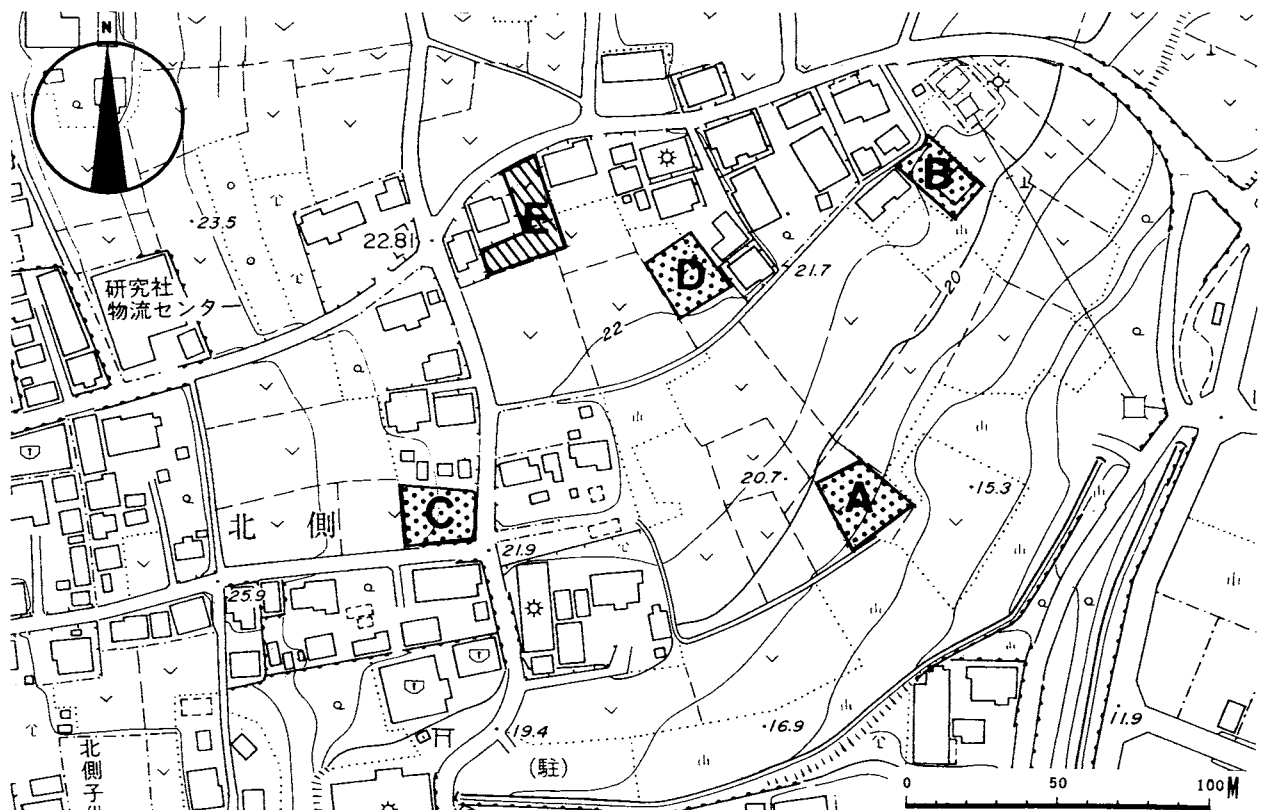
今回の調査は、平成10年4月23日から6月17日にかけて実施した。

2) 遺跡の概要

本遺跡は、武蔵野台地を開析する柳瀬川の左岸台地縁辺部に位置し、遺跡の南側を流れる通称「盆川」と呼ばれる小河川により形成された谷と、遺跡の北側に位置する富士見市境に入り込む小谷に画された、小さな舌状台地部分の南斜面に存在する。

本遺跡は、過去の発掘調査により、縄文時代前期(関山)の住居跡1軒と土坑1基、縄文時代早期・前期・後期の土器片を含む包含層、中期の集石1基、古墳時代後期(鬼高)の住居跡1軒、8世紀中葉の住居跡3軒、9世紀前半の住居跡1軒が検出されている。このことから縄文時代早期から平安時代(9世紀中頃)にかけての複合遺跡として捉えることができる。

今回の調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地(県遺跡番号32-003)の西端部付近に位置し、柳瀬川に向

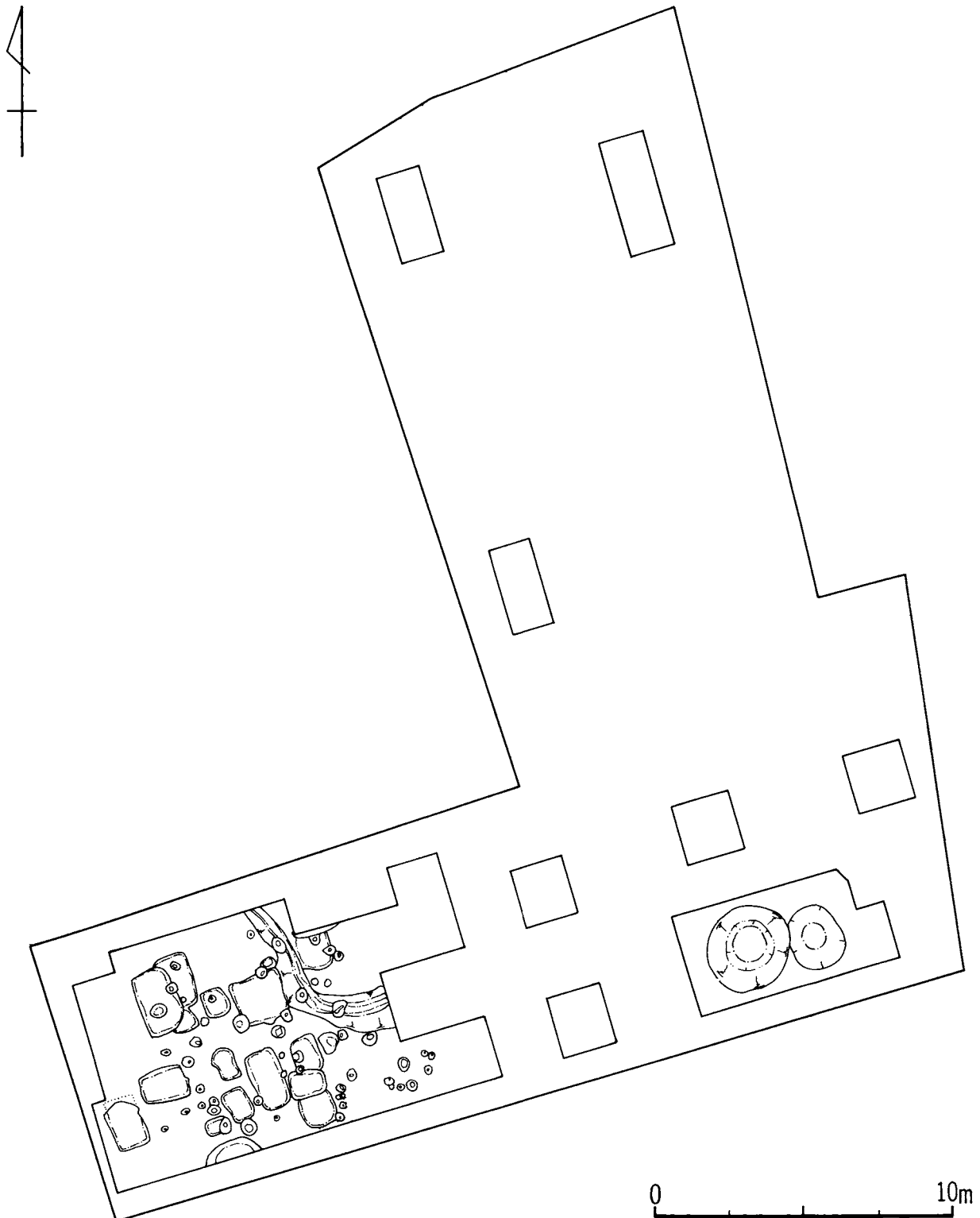


第3図 本村北遺跡調査位置図

かう河岸段丘の2段目西北奥部に当たる。

今回の調査では、調査区の西側部分において、時期不明の土坑と小穴の集中が見られ、東側部分からは、井戸跡2本が検出された。土坑及び小穴に伴う遺物の出土は無く、また、井戸からは焼礫が出土したのみで、各遺構の時期を決定するような遺物の出土は皆無であった。調査区北側においては、遺物、遺構ともに確認されなかった。

今回の調査地は、過去の発掘調査や試掘確認調査等の結果、及び地形状況を勘案すると、遺跡の西北限に位置するものと考えられる。



第4図 本村北遺跡E地点全測図

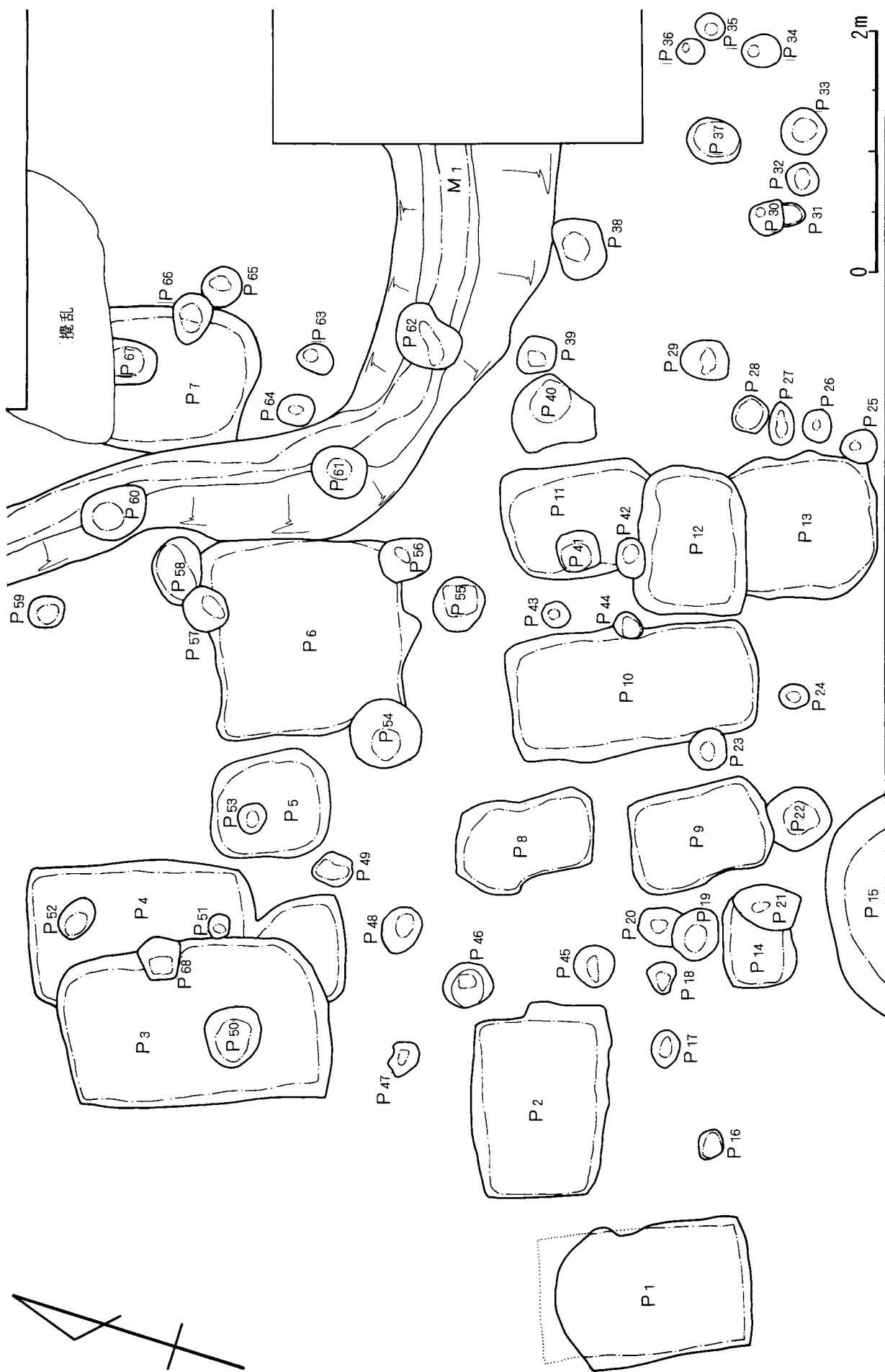
3) 遺構

土坑・小穴群

本遺構は、調査区の西隅に位置する。畑の深耕のために、遺存状態は良好とは言えない状況であった。

番号	種別	平面形	断面形	計測値(cm)	備考
P1	土坑	長方形	台形	W170D110H65	遺物なし
P2	土坑	長方形	台形	W160D110H56	遺物なし
P3	土坑	長方形	台形	W220D138H39	遺物なし
P4	土坑	長方形	台形	W190D120H65	遺物なし
P5	土坑	隅丸方形	筒形	W96D920H42	遺物なし
P6	土坑	方形	箱形	W164D162H36	遺物なし
P7	土坑	長方形	台形	(W)D130H42	遺物なし
P8	土坑	不正形	台形	W110D71H65	遺物なし
P9	土坑	長方形	台形	W116D84H62	遺物なし
P10	土坑	長方形	台形	W204D103H46	遺物なし
P11	土坑	長方形	台形	W130D94H35	遺物なし
P12	土坑	長方形	台形	W122D84H37	遺物なし
P13	土坑	隅丸方形	筒形	W120D116H32	遺物なし
P14	土坑	長方形	台形	W78D61H28	遺物なし
P15	土坑	長方形	箱形	(W)D180H22	遺物なし
P16	小穴	楕円形	台形	W24D20H28	遺物なし
P17	小穴	楕円形	台形	W32D221H33	遺物なし
P18	小穴	楕円形	台形	W28D20H25	遺物なし
P19	小穴	楕円形	台形	W44D38H22	遺物なし
P20	小穴	楕円形	台形	W30D20H20	遺物なし
P21	小穴	楕円形	台形	W56D34H29	遺物なし
P22	小穴	円形	台形	W56D54H38	遺物なし
P23	小穴	円形	台形	W32D32H24	遺物なし
P24	小穴	楕円形	台形	W24D20H20	遺物なし
P25	小穴	楕円形	台形	W32D28H21	遺物なし
P26	小穴	楕円形	台形	W28D22H18	遺物なし
P27	小穴	楕円形	台形	W38D20H25	遺物なし
P28	小穴	楕円	台形	W28D28H23	遺物なし
P29	小穴	楕円形	台形	W40D32H32	遺物なし
P30	小穴	円形	山形	W30D30H35	遺物なし
P31	小穴	楕円形	筒形	W24D20H22	遺物なし
P32	小穴	円形	台形	W24D24H28	遺物なし
P33	小穴	円形	台形	W40D41H33	遺物なし
P34	小穴	楕円形	山形	W30D26H29	遺物なし
P35	小穴	円形	台形	W22D22H20	遺物なし
P36	小穴	円形	台形	W20D20H18	遺物なし
P37	小穴	楕円形	筒形	W46D38H25	遺物なし
P38	小穴	楕円形	箱台形	W52D40H38	遺物なし
P39	小穴	楕円形	箱台形	W34D30H35	遺物なし
P40	小穴	不整円形	台形	W70D60H44	遺物なし
P41	小穴	隅丸方形	台形	W32D32H34	遺物なし
P42	小穴	楕円形	台形	W34D26H27	遺物なし
P43	小穴	円形	台形	W22D22H20	遺物なし
P44	小穴	楕円形	台形	W24D20H22	遺物なし
P45	小穴	円形	台形	W32D32H25	遺物なし
P46	小穴	円形	箱台形	W45D44H28	遺物なし
P47	小穴	不整円形	台形	W30D20H17	遺物なし
P48	小穴	楕円形	台形	W40D28H33	遺物なし
P49	小穴	不整円形	台形	W32D30H18	遺物なし
P50	小穴	楕円形	台形	W50D45H10	遺物なし
P51	小穴	楕円形	台形	W20D15H20	遺物なし
P52	小穴	楕円形	台形	W34D24H16	遺物なし
P53	小穴	楕円形	台形	W22D26H13	遺物なし
P54	小穴	楕円形	台形	W58D58H41	遺物なし
P55	小穴	円形	箱台形	W46D46H45	遺物なし
P56	小穴	隅丸方形	台形	W44D32H29	遺物なし
P57	小穴	楕円形	箱台形	W38D40H39	遺物なし
P58	小穴	楕円形	台形	W48D40H48	遺物なし
P59	小穴	楕円形	台形	W38D38H20	遺物なし
P60	小穴	楕円形	台形	W60D40H37	遺物なし
P61	小穴	楕円形	台形	W46D46H32	遺物なし
P62	小穴	不整円形	台形	W60D42H27	遺物なし
P63	小穴	楕円形	台形	W30D24H20	遺物なし
P64	小穴	円形	台形	W25D25H23	遺物なし
P65	小穴	円形	台形	W30D30H29	遺物なし
P66	小穴	楕円形	台形	W44D30H41	遺物なし
P67	小穴	楕円形	台形	(W)D38H28	遺物なし
P68	小穴	隅丸方形	箱台形	W35D35H40	遺物なし

表2 本村北遺跡E地点土坑・小穴一覧



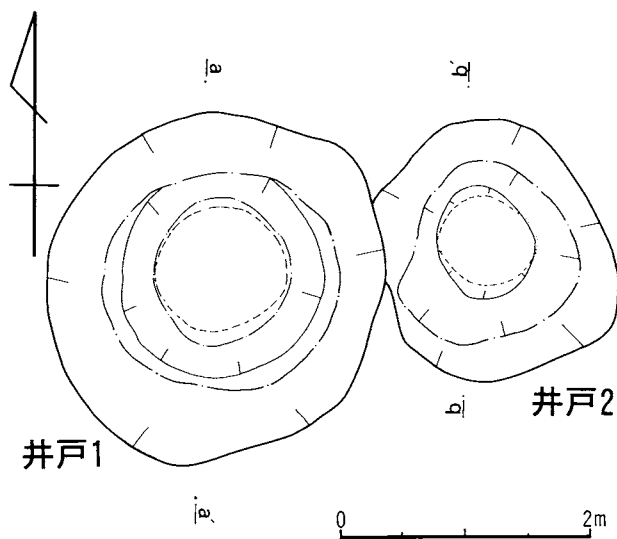
第5图 土坑·小穴平面图

井戸

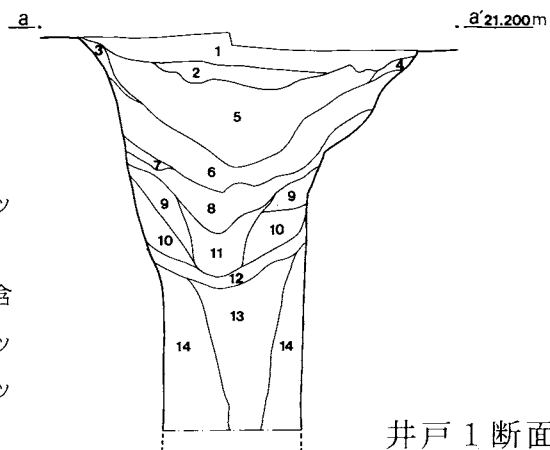
井戸は調査区東側より2基検出された。井戸は、ともに底面までの検出はできなかった。井戸1は、上端2.7m×2.7m、下端1.2m×1.1mのほぼ円形を呈し、断面形は筒型である。

井戸2は、上端2.1m×1.9m、下端0.8m×0.8mのほぼ円形を呈し、断面形は筒型であり、井戸2の廃棄・埋没後に井戸1が掘られている。

遺物は、覆土中より焼礫が出土したのみであった。

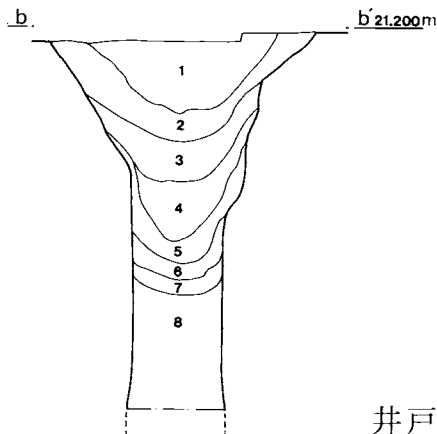


- 1 暗褐色土 粘性, 締まりやや弱。ローム粒子含有。
- 2 褐色土 粘性有, 締まり弱。ローム粒子含有。
- 3 暗褐色土 粘性有, 締まりやや弱。黒褐色土, ローム粒子, ロームブロック含有。
- 4 暗褐色土 粘性弱, 締まりやや有。ローム粒子, ロームブロック含有。
- 5 黒褐色土 粘性強, 締まりやや有。ロームブロック含有。
- 6 黄暗褐色土 粘性有, 締まり弱。黒褐色土, ローム粒子含有。
- 7 暗黄褐色土 粘性強, 締まり弱。ローム粒子, ロームブロック含有。
- 8 暗褐色土 粘性有, 締まりやや弱。ローム粒子, ロームブロック多量含有。
- 9 暗黄褐色土 粘性強, 締まりやや有。ローム粒子, ロームブロック多量含有。
- 10 黄暗褐色土 粘性有, 締まり強。ローム粒子多量含有。
- 11 暗黄褐色土 粘性有, 締まりやや弱。ローム粒子, ロームブロック多量含有。
- 12 黄暗褐色土 粘性有, 締まりやや弱。ローム粒子含有。
- 13 暗黄褐色土 粘性有, 締まりやや弱。ローム粒子, ロームブロック多量含有。
- 14 暗黄褐色土 粘性有, 締まり弱。ローム粒子多量含有。



井戸1断面

- 1 暗褐色土 粘性有, 締まり有。ローム粒子含有。
- 2 暗褐色土 粘性強, 締まり有。ローム粒子, ロームブロック多量含有。
- 3 暗黄褐色土 粘性強, 締まりやや有。ローム粒子, ロームブロック多量含有。
- 4 暗褐色土 粘性強, 締まりやや弱。ロームブロック多量含有。
- 5 黄暗褐色土 粘性有, 締まり弱。ローム粒子, ロームブロック含有。
- 6 黄暗褐色土 粘性有, 締まり弱。ローム粒子含有。
- 7 暗黄褐色土 粘性有, 締まりやや弱。ローム粒子多量含有。
- 8 暗褐色土 粘性有, 締まりやや弱。ローム粒子, ロームブロック含有。



井戸2断面

第6図 井戸実測図

2. 本村南遺跡第8地点の調査

1) 調査の経緯

本村南遺跡第8地点は、埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢字南側864番地3に位置する。調査は、個人宅地の盛土に先立つ埋蔵文化財記録保存調査として800㎡が実施された。

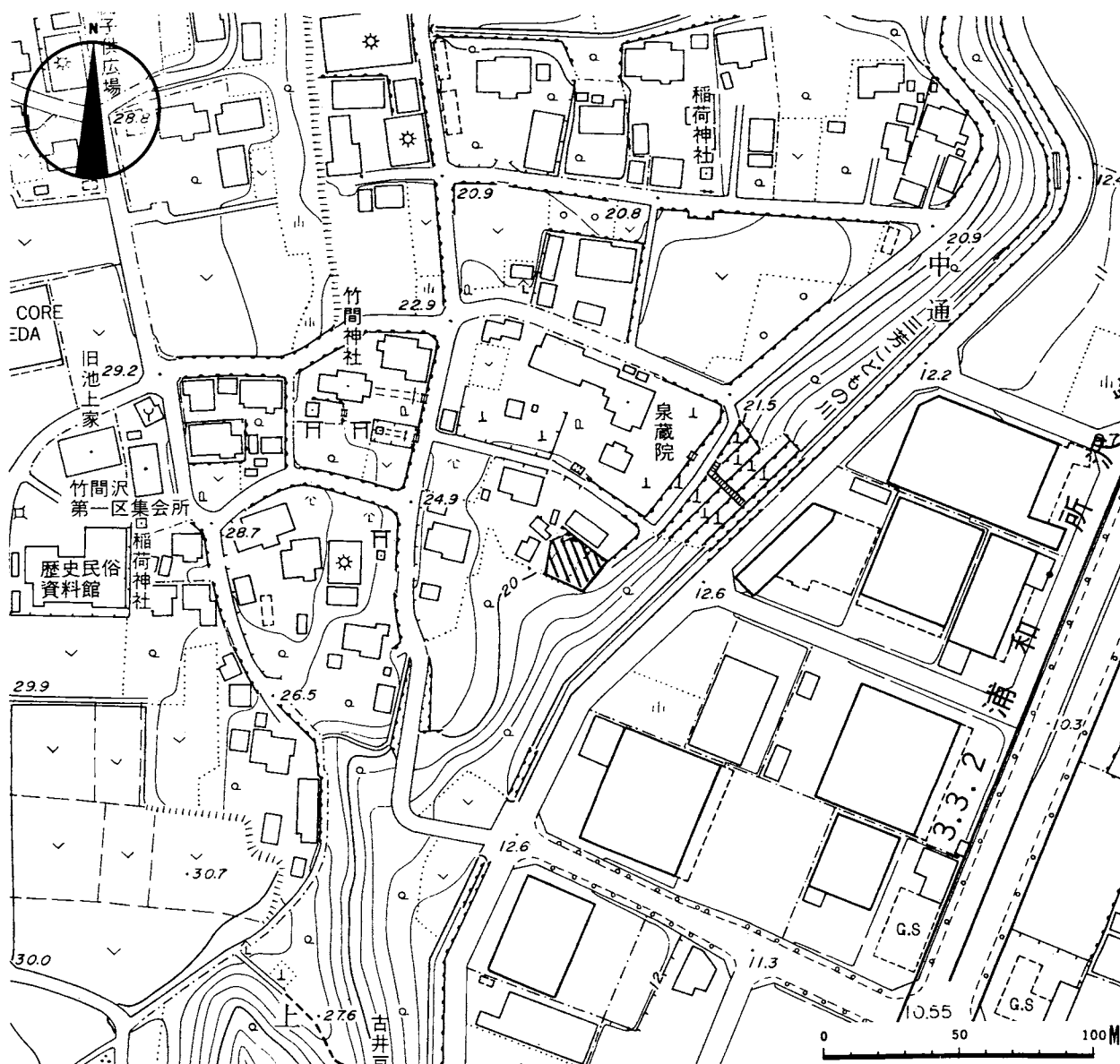
本遺跡は、過去7地点において発掘調査が実施されている。今回の調査地は、鎌倉街道沿いの河岸段丘崖線上に存在し、中世の館跡の伝承が残る部分の一角に当たる。調査は、平成10年9月17日から10月22日にかけて実施した。

2) 遺跡の概要

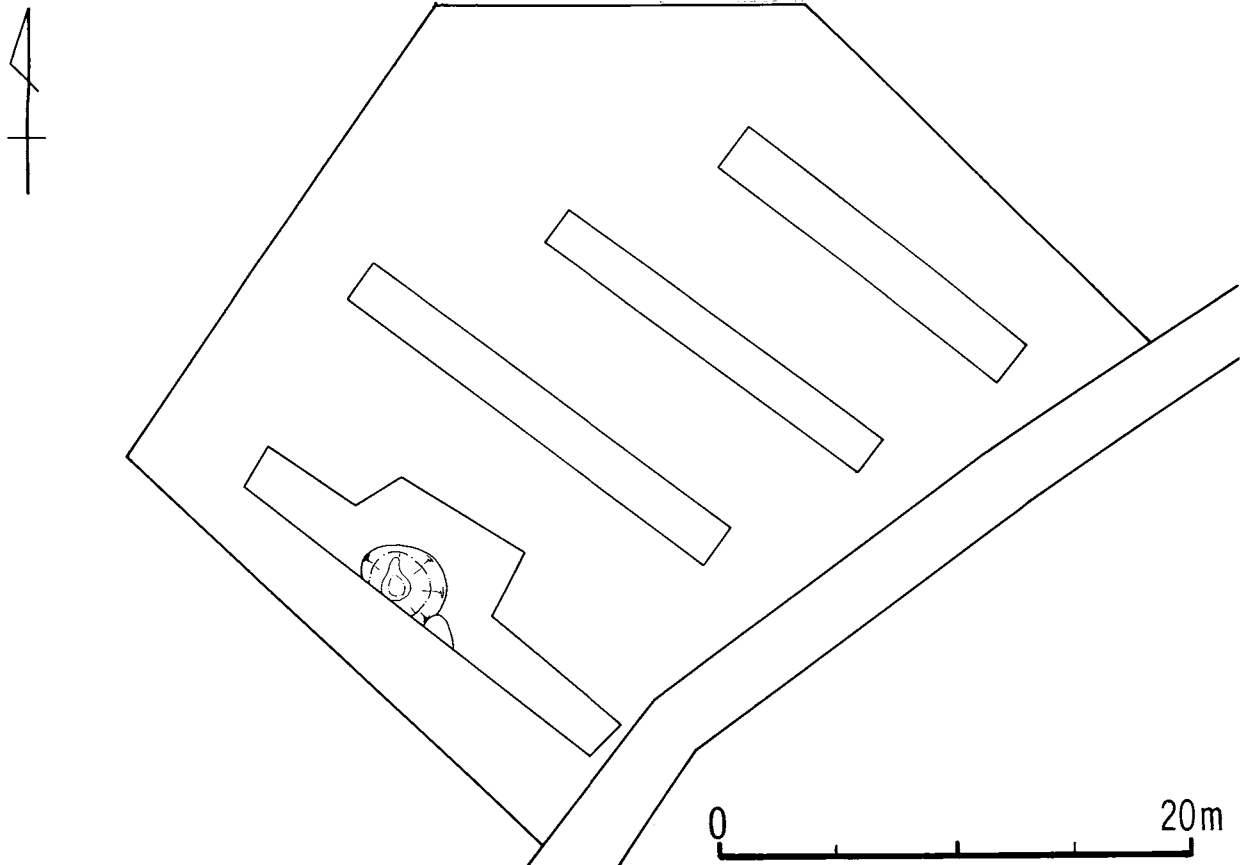
本遺跡は、武蔵野台地を開析する柳瀬川の左岸台地縁辺部、柳瀬川により形成された河岸段丘の小さなテラス状部分に位置し、遺跡の北側にも柳瀬川に流れ込む通称「盆川」と呼ばれる小河川が小さな谷戸を形成している。

本遺跡は、過去に7地点1,974㎡の発掘調査が実施され、宮ノ台期の住居跡1軒、弥生時代後期の住居跡16軒、方形周溝墓1基、古墳時代の住居跡1軒、地下式坑2基、井戸跡1基、時期不明の土坑3基、時期不明の溝8条である。

今回の調査で発見された遺構は、井戸1基である。



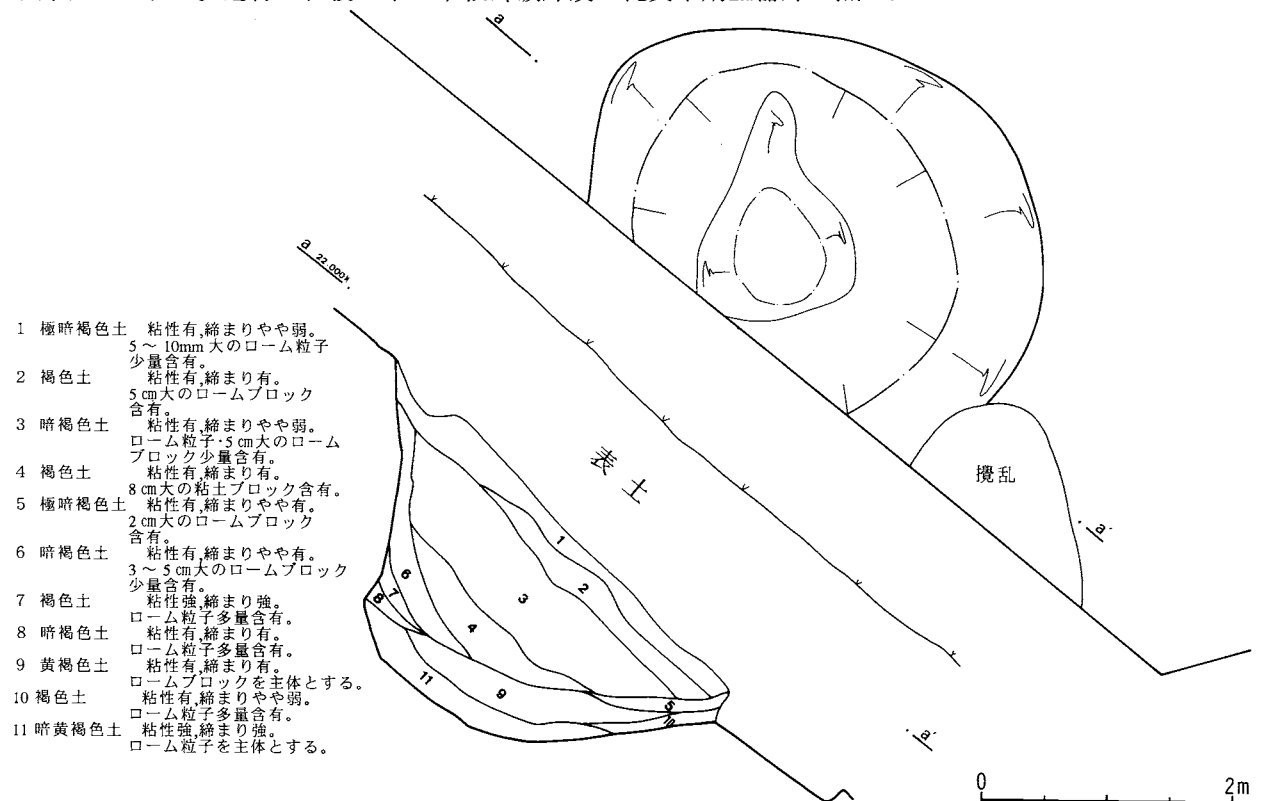
第7図 本村南遺跡第8地点調査位置図



第 8 図 本村南遺跡第8地点全測図

3) 遺構

井戸は、調査区の南西側に位置する。南西側約半分が調査区外に延びている。規模は、確認面上端3.5m×3.3mの不整円形、下端は1.4m×1.1mの楕円形を呈し、確認面からの深さは1.9mである。断面形はすり鉢状を呈する。遺物は、覆土中より板碑破片及び縄文中期土器片11点が出土した



- 1 極暗褐色土 粘性有, 締まりやや弱。
5~10mm 大のローム粒子
少量含有。
- 2 褐色土 粘性有, 締まり有。
5cm 大のロームブロック
含有。
- 3 暗褐色土 粘性有, 締まりやや弱。
ローム粒子・5cm 大のローム
ブロック少量含有。
- 4 褐色土 粘性有, 締まり有。
8cm 大の粘土ブロック含有。
- 5 極暗褐色土 粘性有, 締まりやや有。
2cm 大のロームブロック
含有。
- 6 暗褐色土 粘性有, 締まりやや有。
3~5cm 大のロームブロック
少量含有。
- 7 褐色土 粘性強, 締まり強。
ローム粒子多量含有。
- 8 暗褐色土 粘性有, 締まり有。
ローム粒子多量含有。
- 9 黄褐色土 粘性有, 締まり有。体とする。
ロームブロックを主体とする。
- 10 褐色土 粘性有, 締まりやや弱。
ローム粒子多量含有。
- 11 暗黄褐色土 粘性強, 締まり強。
ローム粒子を主体とする。

第 9 図 井戸実測図

3. 三芳唐沢遺跡C地点の調査

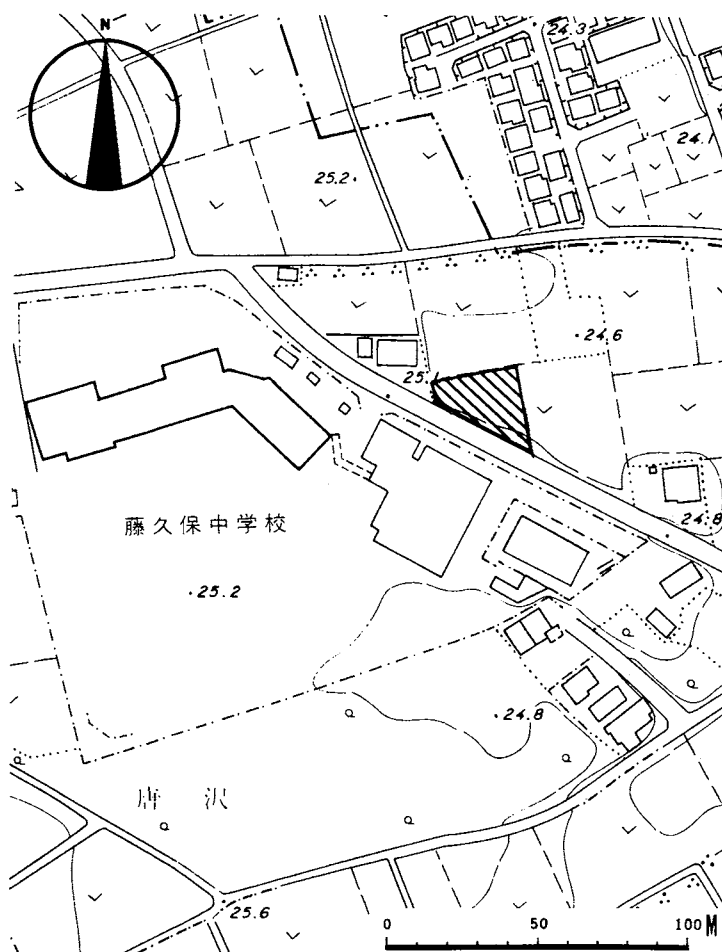
1) 調査の経緯と遺跡の概要

三芳唐沢遺跡C地点は、三芳町大字藤久保字唐沢429番地10に位置する。今回の調査は個人住宅移転に先立つ埋蔵文化財記録保存調査として、877㎡を対象に実施した。

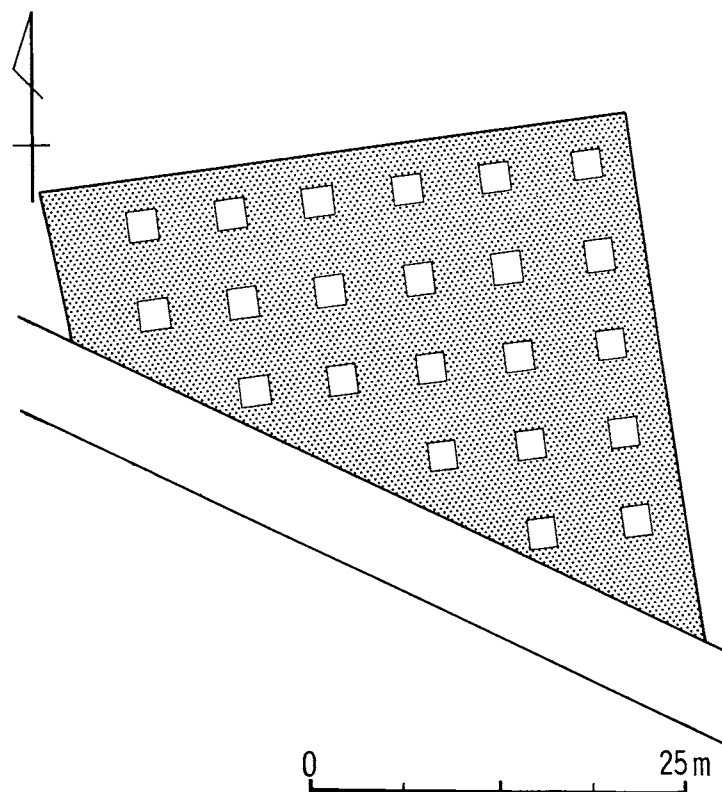
本遺跡は、過去3地点において調査が実施されており、旧石器時代及び縄文時代早期から中期にかけての複合遺跡として捉えられている。今回の調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地(県遺跡番号32-010)の北西部にあたる。今回の調査は、平成10年12月14日から12月16日にかけて実施した。

三芳唐沢遺跡は、東方に位置する富士見市より台地に入り込む、唐沢堀と呼ばれる小河川が形成した、緩やかな開析谷の左岸上流部に位置する。この開析谷を挟んだ対岸には、旧石器時代と平安時代窯跡遺跡として知られる新開遺跡が存在する。

本遺跡は、過去3地点の調査が実施されている。初回は富士見市立西中学校建設に先立つ調査として、昭和53年4月17日から5月30日にかけて富士見市遺跡調査会により実施され、旧石器時代石器集中5ヶ所・縄文時代炉穴等が検出されている。2回目は、昭和59年8月20日から8月23日にかけて、A地点の調査として実施されたが、遺構・遺物の検出を見ていない。3回目は、B地点の調査として平成2年1月8日から1月25日にかけて実施され、旧石器時代角錐状石器1点(IV層)と時期不明の溝状遺構3条が検出されている。今回の調査地は、B地点の北側に隣接する部分であるが、遺構・遺物共に検出されなかった。このことは、本調査区が遺跡の周辺部にあたるためと考えられる。



第10図 三芳唐沢遺跡C地点調査位置図



第11図 三芳唐沢遺跡C地点全測図

4. 南止遺跡（みなしずいせき）C地点・D地点の試掘確認調査

1) 調査の経緯

今回報告する南止遺跡の調査は、遺跡付近一帯の農地改良工事（埋立による地盤かさ上げ）に先立つ遺跡の範囲及び性格・内容を把握するための試掘確認調査として、5期に分けて実施する予定の試掘確認調査のうち、1期と2期にあたる平成12年度調査分のC地点及び平成13年度調査分のD地点についての概要である。なお、平成14年度は第3期の試掘確認調査として11月よりE地点の調査を実施中であるため、内容については次回の報告に委ねる。

C地点の調査は、上富字南止702番地他18,555㎡を対象に、平成12年4月12日～6月16日にかけて実施した。この結果、旧石器時代の石器集中箇所が確認されたため、施工者と協議を実施し、遺構確認範囲はローム層を掘削せず、盛土にて遺跡を保護するよう計画変更することが了承された。

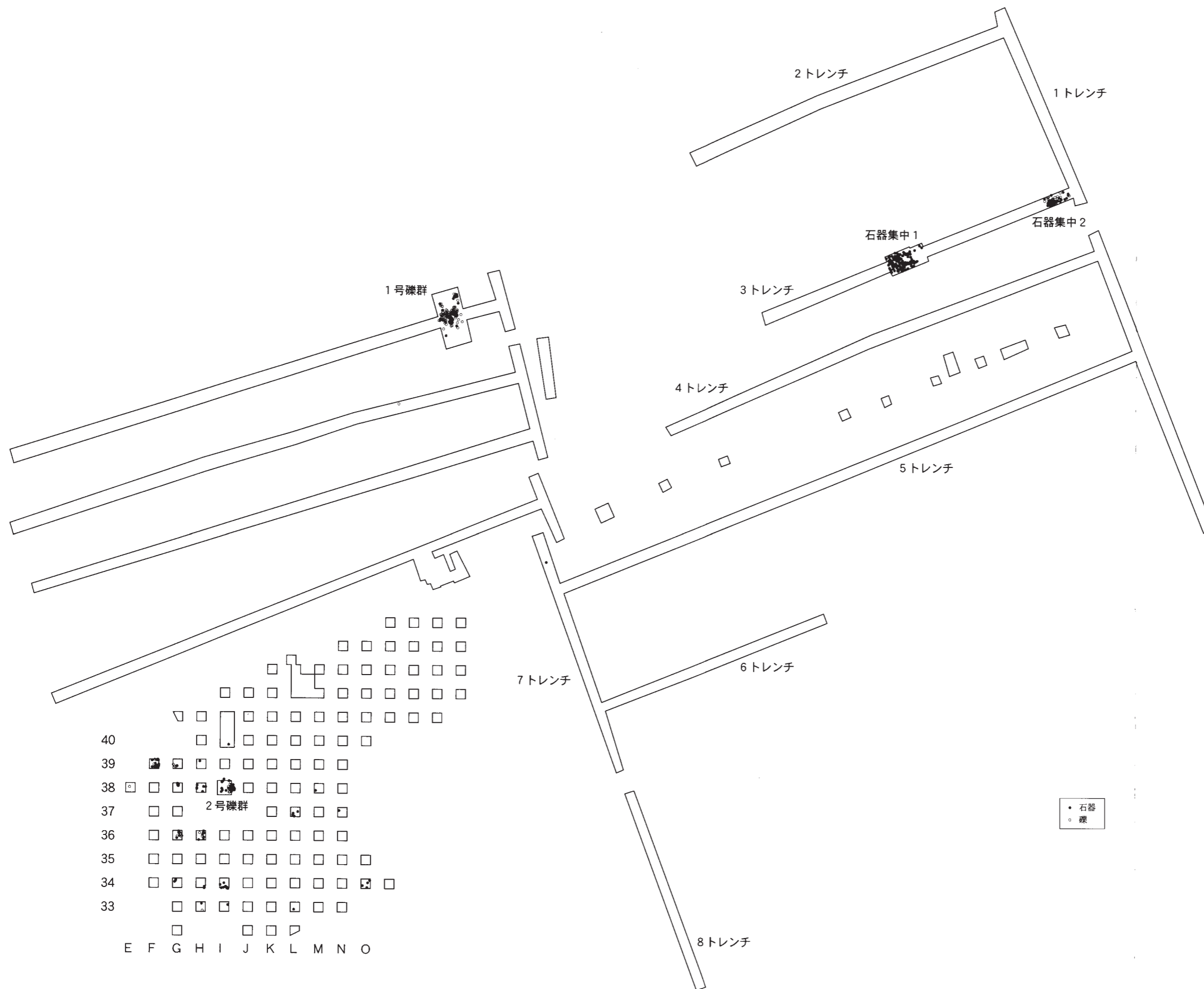
D地点の調査は、上富字南止692番地1他17,895㎡を対象に、平成12年4月12日～6月2日にかけて実施した。この結果、721番地で旧石器時代の石器集中箇所2ヶ所が確認された。施工者の（株）太建と協議を行った結果、遺構が確認された当該地番周辺1,080㎡については一切の掘削を行わず、盛土のみを行い遺跡を保存することとなった。

2) 遺跡の概要

本遺跡は、町の西南端から所沢市南永井を経て柳瀬川に至る埋没谷の最上流部付近、三芳町大字上富字南止696番地から769番地付近一帯、約96,000㎡の広がりをもつ旧石器時代から縄文時代早期を中心とする遺跡である。過去平成7・8年度に墓地造成（上富696-1,716-2他）に先立つ試掘確認調査（A地点）、平成9年度に電気鉄塔建設（上富691-4）に先立つ発掘調査（B地点）が実施され、旧石器時代礫群1ヶ所と黒曜石剥片1点、時期不明の溝2条が確認されている。今回の試掘確認調査（C、D地点）では、旧石器時代Ⅶ層の礫群1ヶ所、Ⅳ層下部の礫群1ヶ所、Ⅳ層上部石器集中1ヶ所、礫群1ヶ所、Ⅲ層石器集中1ヶ所、縄文時代集石1ヶ所、時期不明の溝4条が確認された。



第12図 南止遺跡調査地点図（1/5,000）



第13図 南止遺跡遺物分布図(1/850)

3) 遺構と遺物

旧石器時代ではⅢ層上部、Ⅳ層下部、Ⅳ層下部、Ⅶ層から遺物が出土した。石器の出土総点数は296点、礫の出土総点数は271点の計567点が出土した。C地点においては、Ⅳ層上部とⅦ層から各1基、礫群が検出され、石器123点、礫219点が出土した。D地点からは石器集中がⅢ層上部、Ⅳ層上部から各1基、礫群がⅣ層上部から1基検出され、石器173点、礫52点が出土した。

C地点出土石器

C地点ではⅣ層上部、Ⅳ層下部、Ⅶ層から遺物が出土した。

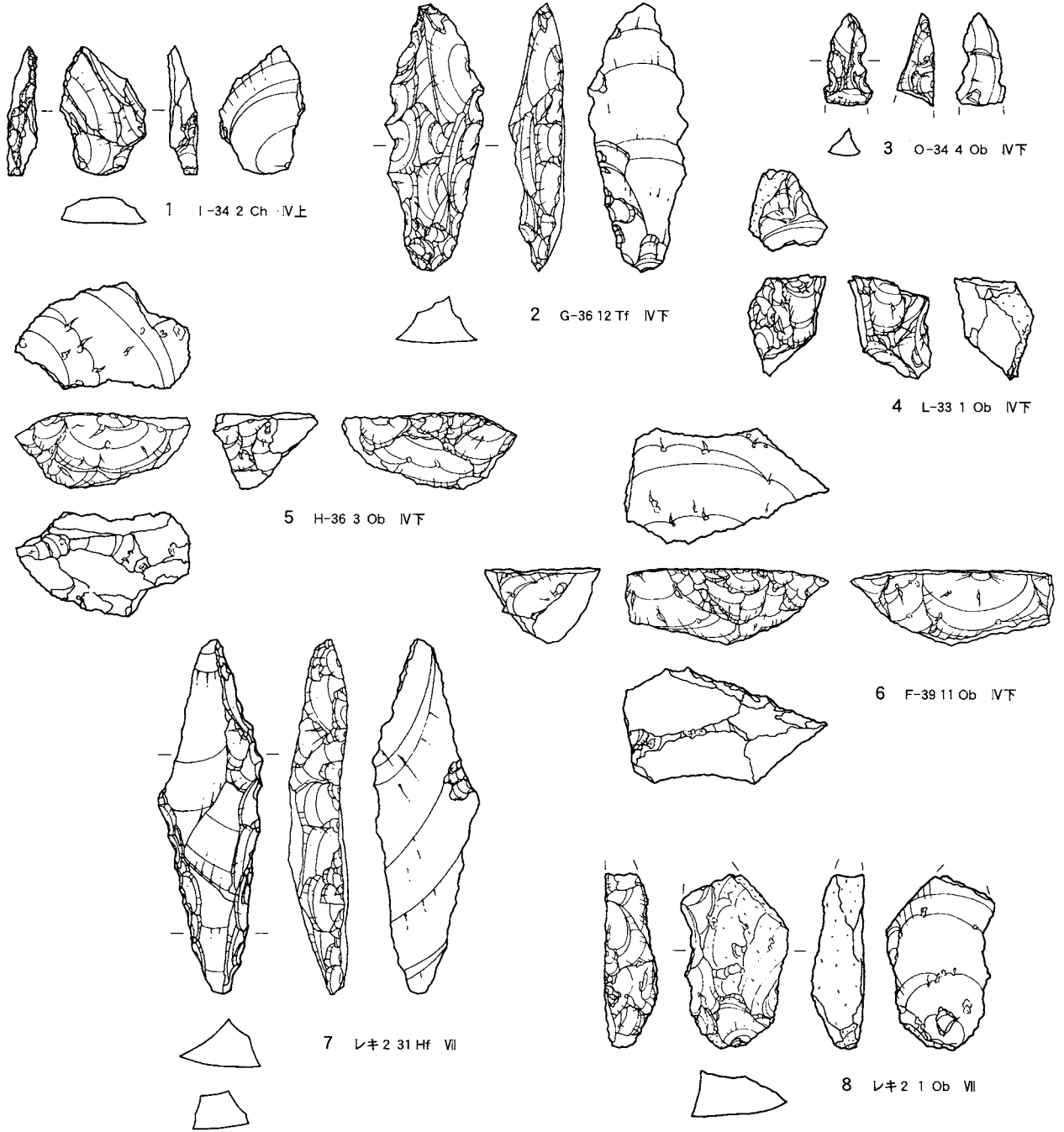
1はⅣ層上部出土のナイフ形石器である。小型の一側辺基部加工であり、ソフトハンマーによる直接打撃で加工を施している。基部に原礫面を残置している。チャート製である。I-34グリッド出土であり、同グリッドからは石核1点、剥片5点、碎片4点が出土している。2～6はⅣ層下部出土の石器である。2は凝灰岩製のナイフ形石器である。一側辺基部加工であり、側辺は打点の大きさから間接剥離打法よって加工を施していると思われる、鋸歯状を呈し、器体厚は非常に厚い。G-36グリッド出土であり、同グリッドからは剥片が2点出土している。3は黒曜石製のナイフ形石器の刃部である。急角度剥離であり、素材は横長剥片と考えられる。O-34グリッド出土であり、同グリッドからは剥片2点、碎片1点が出土している。4～6は黒曜石製の石核である。4は小型の縦長剥片を剥離している。頻繁に打面転移が行われていることが窺える。L-33グリッド出土である。5・6は非常に類似した石核である。ポジ面を打面としており、打面転移は見受けられない。小型の横長剥片を剥離している。5はH-36グリッド出土であり、同グリッドからは大型削器1点、剥片5点が出土している。6はF-39グリッド出土であり、同グリッドからは剥片12点が出土している。7・8はⅦ層出土のナイフ形石器である、7は一側辺基部加工であり、ソフトハンマーによる直接打撃で加工を施している。素材は横長剥片であり、ホルンフェルス製である。礫群2に帰属する。8は黒曜石製であり、上部を折損している。左側辺にソフトハンマーによる直接打撃で加工を施している。素材の打面は残置しており、原礫面である。礫群2に帰属する。

D地点出土石器

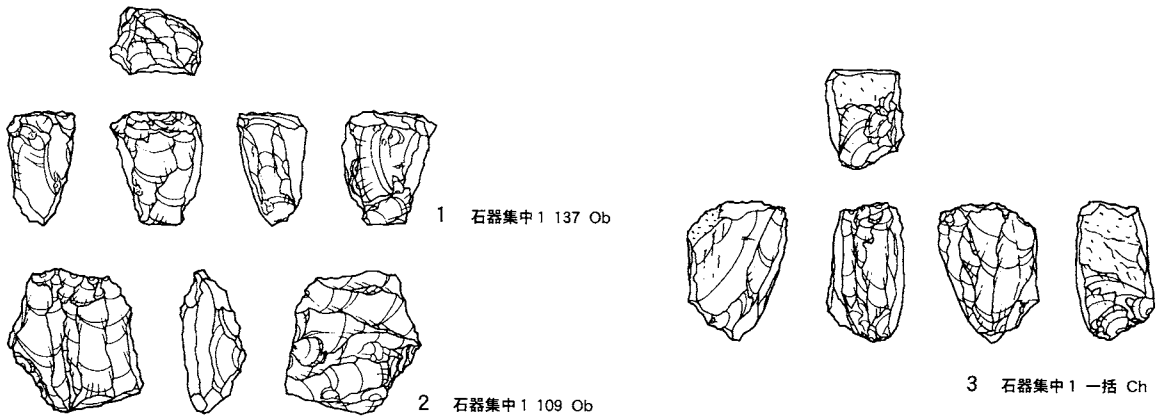
D地点からは2基の石器集中が検出されている。石器集中1はⅢ層上部に確認され、細石刃核3点、細石刃29点、楔形石器1点、小型石刃3点、二次加工のある剥片1点、剥片62点、碎片44点、石核3点が出土した。石器集中2はⅣ層上部に確認され、ナイフ形石器1点、微細剥離痕のある剥片1点、剥片15点、碎片4点、石核1点が出土した。

1～34は石器集中1出土の石器である。1～3は野岳・休場型の非削片系細石刃核である。1は黒曜石製であり、角錐状を呈する。石核整形を行った後、打面調整を行っている。打面は多剥離面打面である。細石刃剥離面では頭部調整が顕著である。2は黒曜石製である。まずは右側面を打面とし、裏面において細石刃を剥離した後、90°打面転移し、正面において剥離を行っている。頭部調整は顕著である。3は角錐状を呈する。小礫を素材とし、右側面から上部にかけて原礫面が残置している。打面は多剥離面打面であり、頭部調整も見受けられる。チャート製であるが、今回の調査においてはチャート製の細石刃は出土していない。4～31は細石刃である。4～19が頭部位、20～24が中間部位、25～30が末端部位、9はホルンフェルス製であり、接合により完形、31は完形である。大きさは様々であるが、比較的小型の細石刃が多い。5・12・16・20は微細剥離痕が見受けられる。31は原礫面が大きく残置する。他は黒曜石製である。32～34は黒曜石製の小型石刃である。32は下部を折損しており、打面は複剥離打面である。33・34は上部を折損している。35は石器集中2出土の黒曜石製のナイフ形石器である。ソフトハンマーによる直接打撃で加工を施している。素材は横長剥片である。基部に割れ円錐が見受けられる。

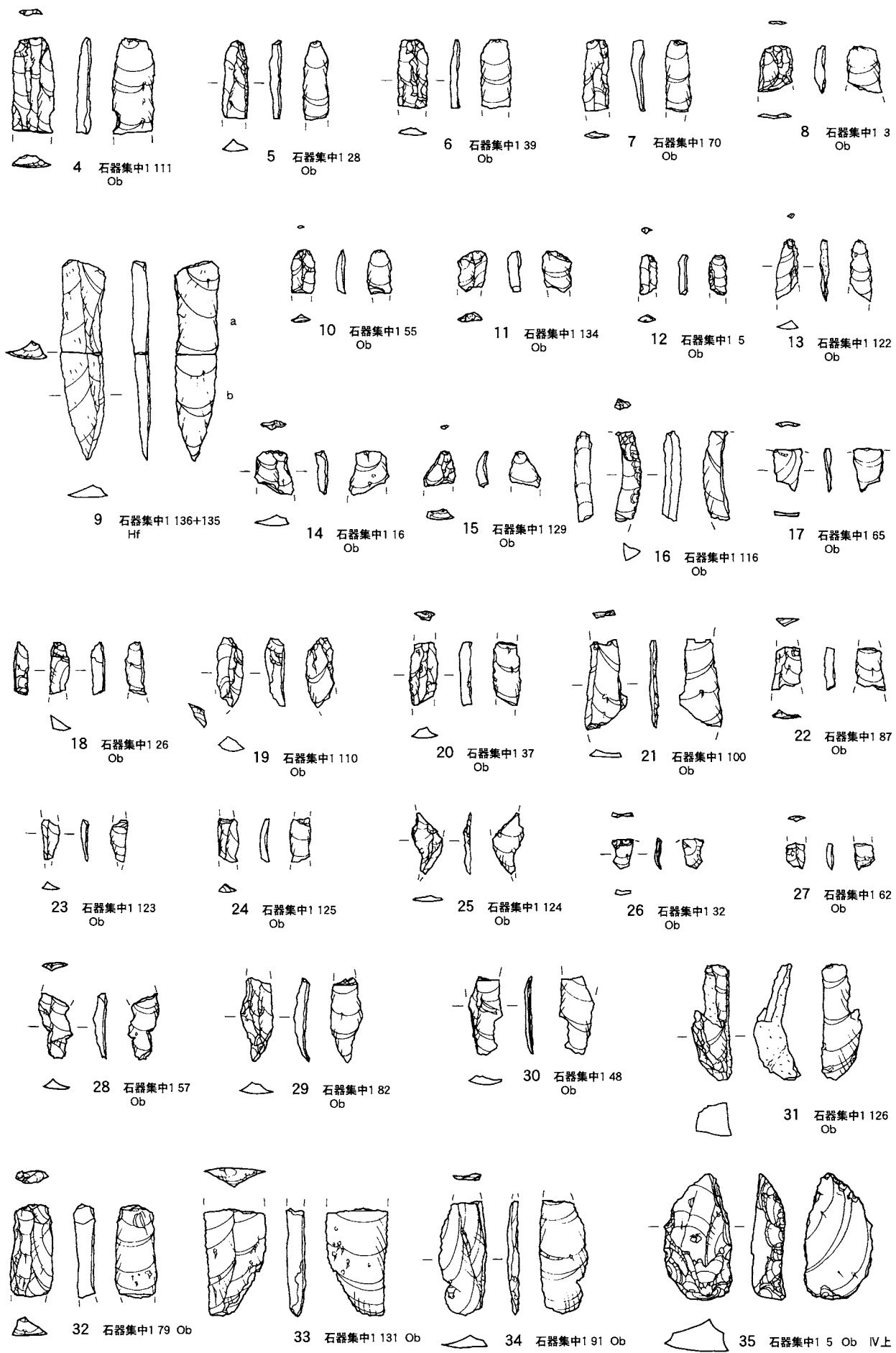
C地点出土石器



D地点出土石器



第14図 南止遺跡出土遺物実測 (1) (C地点; 3/4, D地点; 1/1)



第15図 南止遺跡出土遺物実測(2) (4~32; 1/1, 33~36; 3/4)

No.	地点	遺構名	遺物No.	層位	石質	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	公共座標X(m)	公共座標Y(m)	標高(m)
1	C	I-34	2	IV上	チャート	ナイフ形石器	27.38	18.37	5.91	2.3	-20751.727	-29120.736	47.454
2	C	G-36	12	IV下	凝灰岩	ナイフ形石器	56.68	20.74	11.72	11.1	-20740.459	-29130.723	46.732
3	C	O-34	4	IV下	黒曜石	ナイフ形石器	(19.12)	(10.11)	(7.67)	0.8	-20751.807	-29090.749	46.887
4	C	L-33	1	IV下	黒曜石	石核	19.45	16.21	19.02	4.4	-20756.475	-29106.256	46.933
5	C	H-36	3	IV下	黒曜石	石核	16.05	36.96	21.68	9.8	-20741.378	-29125.422	46.954
6	C	F-39	11	IV下	黒曜石	石核	41.88	25.86	15.12	12.1	-20726.589	-29135.122	46.458
7	C	I#02	31	VII	ホルンフェルス	ナイフ形石器	75.02	22.46	12.86	17.6	-20731.466	-29118.954	46.518
8	C	I#02	1	VII	黒曜石	ナイフ形石器	(36.55)	23.25	10.62	8.4	-20729.180	-29121.160	46.436
1	D	UNI01	137	III	黒曜石	細石刃核	15.40	11.98	8.95	1.8	-20618.894	-28980.983	45.644
2	D	UNI01	109	III	黒曜石	細石刃核	18.84	18.19	7.90	2.4	-20618.443	-28980.325	45.487
3	D	UNI01	一括		チャート	細石刃核	18.33	14.20	10.79	3.2			
4	D	UNI01	111	III	黒曜石	細石刃	18.03	7.84	2.82	0.4	-20619.096	-28980.152	45.511
5	D	UNI01	28	III	黒曜石	細石刃	14.41	5.10	2.47	0.1	-20617.493	-28977.341	45.512
6	D	UNI01	39	III	黒曜石	細石刃	12.62	5.56	1.65	0.1	-20619.853	-28976.659	45.469
7	D	UNI01	70	III	黒曜石	細石刃	13.41	4.77	2.47	0.1	-20618.673	-28979.093	45.415
8	D	UNI01	3	III	黒曜石	細石刃	8.71	6.34	1.71	0.1	-20617.103	-28975.006	45.381
9a	D	UNI01	136	III	ホルンフェルス	細石刃	17.37	8.23	3.41	0.5	-20619.367	-28980.471	45.399
9b	D	UNI01	135	III	ホルンフェルス	細石刃	19.54	7.61	2.66	0.4	-20619.413	-28980.386	45.426
10	D	UNI01	55	III	黒曜石	細石刃	8.05	4.34	1.77	0.1	-20619.332	-28977.567	45.509
11	D	UNI01	134	III	黒曜石	細石刃	6.97	5.56	2.45	0.1	-20619.840	-28980.286	45.500
12	D	UNI01	5	III	黒曜石	細石刃	7.36	3.33	1.45	0.1	-20619.541	-28974.714	45.452
13	D	UNI01	122	III	黒曜石	細石刃	11.23	3.86	1.83	0.1	-20620.417	-28979.470	45.550
14	D	UNI01	16	III	黒曜石	細石刃	7.80	7.23	2.24	0.1	-20619.004	-28975.594	45.393
15	D	UNI01	129	III	黒曜石	細石刃	(6.73)	5.98	2.02	0.1	-20621.131	-28980.158	45.554
16	D	UNI01	116	III	黒曜石	細石刃	16.75	3.02	4.43	0.1	-20619.885	-28979.609	45.466
17	D	UNI01	65	III	黒曜石	細石刃	(7.82)	(5.86)	1.54	0.1	-20618.137	-28978.554	45.491
18	D	UNI01	26	III	黒曜石	細石刃	9.57	3.76	2.42	0.1	-20617.482	-28976.033	45.421
19	D	UNI01	110	III	黒曜石	細石刃	12.38	4.90	3.26	0.2	-20618.586	-28980.439	45.569
20	D	UNI01	37	III	黒曜石	細石刃	11.53	5.23	2.44	0.2	-20620.080	-28976.754	45.591
21	D	UNI01	100	III	黒曜石	細石刃	16.67	7.43	1.67	0.2	-20621.403	-28978.567	45.578
22	D	UNI01	87	III	黒曜石	細石刃	7.75	5.63	2.15	0.1	-20620.358	-28978.419	45.467
23	D	UNI01	123	III	黒曜石	細石刃	7.14	3.61	1.37	0.1	-20620.558	-28979.605	45.510
24	D	UNI01	125	III	黒曜石	細石刃	7.99	3.84	1.76	0.1	-20621.403	-28979.237	45.631
25	D	UNI01	124	III	黒曜石	細石刃	8.18	6.76	1.49	0.1	-20621.029	-28979.484	45.543
26	D	UNI01	32	III	黒曜石	細石刃	5.47	4.02	1.16	0.1	-20618.180	-28977.481	45.451
27	D	UNI01	62	III	黒曜石	細石刃	4.39	3.50	1.28	0.1	-20618.024	-28978.167	45.487
28	D	UNI01	57	III	黒曜石	細石刃	10.83	7.23	2.67	0.1	-20619.056	-28978.178	45.486
29	D	UNI01	82	III	黒曜石	細石刃	15.30	5.94	2.64	0.2	-20619.406	-28978.409	45.499
30	D	UNI01	48	III	黒曜石	細石刃	14.25	6.42	1.45	0.1	-20620.458	-28977.420	45.497
31	D	UNI01	126	III	黒曜石	細石刃	20.41	7.85	10.60	0.6	-20621.760	-28979.843	45.596
32	D	UNI01	79	III	黒曜石	小型石刃	(22.11)	10.17	5.11	1.0	-20619.317	-28978.830	45.453
33	D	UNI01	131	III	黒曜石	小型石刃	(25.74)	15.51	4.81	1.6	-20620.218	-28980.491	45.464
34	D	UNI01	91	III	黒曜石	小型石刃	27.78	11.81	2.56	0.7	-20620.938	-28977.975	45.649
35	D	UNI02	5	IV上	黒曜石	ナイフ形石器	30.86	17.10	8.87	3.8	-20605.977	-28942.809	44.984

表3 遺物観察表

写真図版



調査前



調査風景



土坑確認状況



井戸検出風景



井戸 1



井戸 2



土坑・小穴検出状況



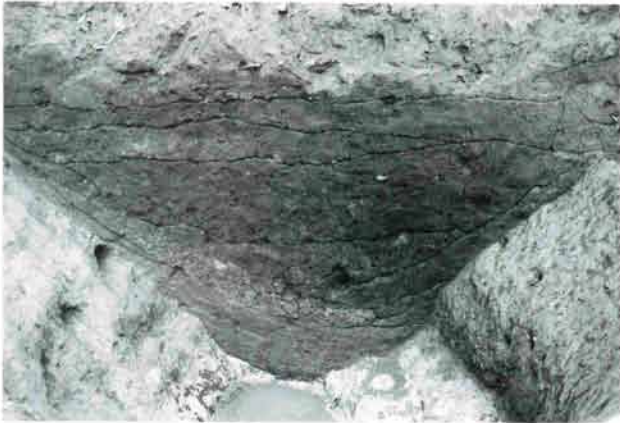
調査終了



調査前



調査風景



井戸セクション



井戸遺物出土状況



井戸完掘



トレンチ開掘状況



出土遺物



三芳唐沢遺跡C地点調査前



三芳唐沢遺跡C地点作業風景



三芳唐沢遺跡C地点作業風景



三芳唐沢遺跡C地点調査終了



南止遺跡調査前



南止遺跡土層



南止遺跡遺物出土状況 (礫群1)



南止遺跡遺物出土状況 (礫群2)



南止遺跡遺物出土状況



南止遺跡遺物出土状況



集石



溝



石器集中1



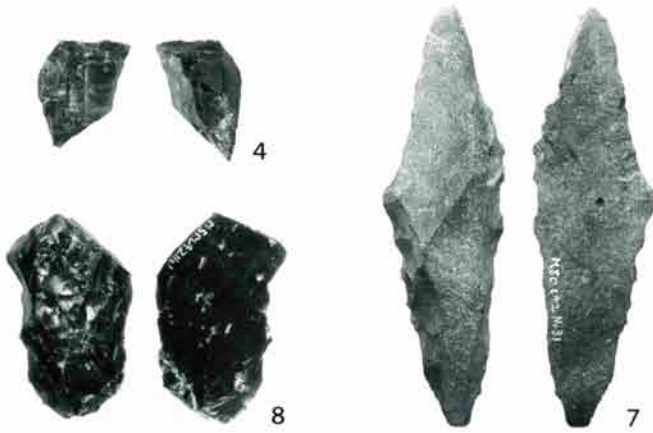
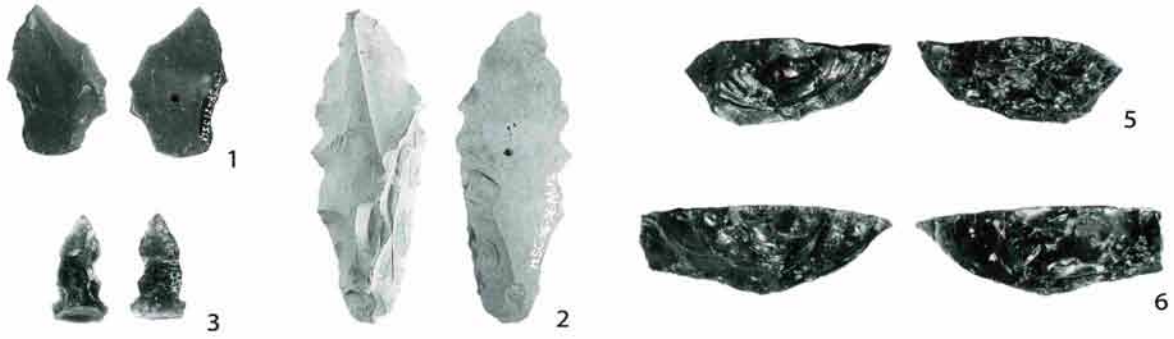
石器集中2



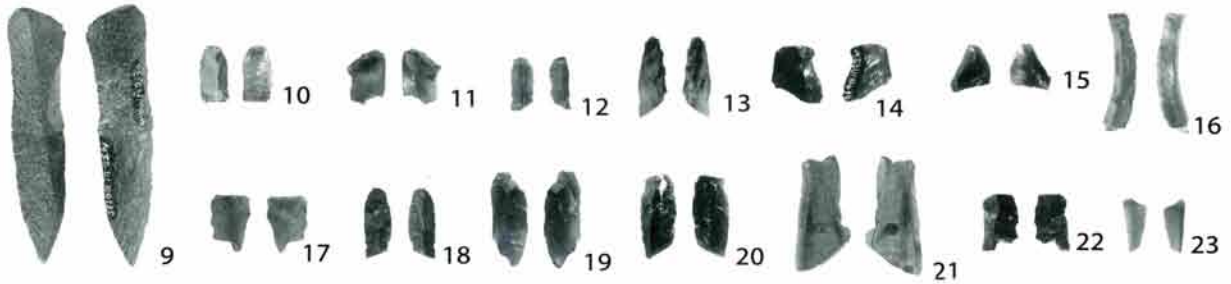
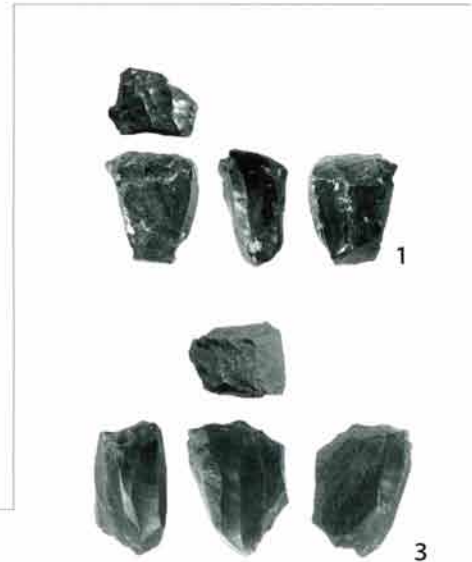
調査風景



調査風景



C地点出土遺物



D地点出土遺物



藤久保東遺跡調査前



藤久保東遺跡調査風景



藤久保東遺跡調査風景



藤久保東遺跡調査終了



生出窪遺跡調査前



生出窪遺跡焼土跡確認状況



生出窪遺跡焼土跡



生出窪遺跡調査終了



調査前



調査風景



調査風景



調査風景



遺物確認状況



遺物確認状況



遺物確認状況



遺物確認状況



藤久保東遺跡調査前



藤久保東遺跡調査風景



藤久保東遺跡調査風景



藤久保東遺跡調査終了



俣埜遺跡調査前



俣埜遺跡調査風景



俣埜遺跡調査風景



俣埜遺跡調査風景



本村南遺跡調査前



本村南遺跡調査風景



本村南遺跡調査風景



本村南遺跡調査終了



古井戸山遺跡調査前



古井戸山遺跡調査風景



古井戸山遺跡集石確認状況



古井戸山遺跡住居跡確認状況



北原遺跡調査前



北原遺跡調査風景



北原遺跡遺物出土状況



出土遺物



北原遺跡調査終了



南新埜遺跡調査前



南新埜遺跡調査風景



南新埜遺跡調査風景



南新埜遺跡調査終了

報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはくつちようさほうこくしょ						
書名	町内遺跡発掘調査報告書	巻次	V				
副書名							
巻名							
シリーズ名	三芳町埋蔵文化財報告						
シリーズ番号	31						
編著者名	柳井章宏						
編集機関	三芳町教育委員会						
所在地	〒354-8555 埼玉県入間郡三芳町大字藤久保1,100番地1						
発行年月日	2003年(平成15年)3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡 番号				
ほんむらきたいせき 本村北遺跡E地点	ちくまざわ 竹間沢700-6	113247	32-003	35° 49' 22" 139° 33' 08"	19980423 19980617	578	個人住宅
ほんむらみなみいせき 本村南遺跡第8地点	ちくまざわ 竹間沢864-3	113247	32-001	35° 49' 13" 139° 33' 11"	19980917 19981022	800	個人宅地盛土
みよしからざわいせき 三芳唐沢遺跡C地点	ふじくぼ 藤久保429-1	113247	32-008	35° 49' 53" 139° 32' 38"	19981214 19981216	877	個人住宅
みなしずいせき 南止遺跡C地点	かみとめ 上富720他	113247	32-021	35° 48' 45" 139° 30' 35"	20000412 20000616	18,555	農地改良
みなしずいせき 南止遺跡D地点	かみとめ 上富692-1他	113247	32-021	35° 48' 45" 139° 30' 30"	20010412 20010602	17,895	農地改良
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
本村北遺跡E地点	集落跡	近世		井戸・土坑		遺物出土無し	
本村南遺跡第8地点	集落跡	中世		井戸	板碑破片		
三芳唐沢遺跡C地点	集落跡					遺物遺構無し	
南止遺跡C・D地点	キャンプ跡	旧石器		VI～III石器集中	VI・IV石器・細石刃	細石器製作跡	

三芳町埋藏文化財報告 3 1
町内遺跡発掘調査報告書 V

発行日 平成15年3月31日

編集機関 三芳町教育委員会

入間郡三芳町藤久保1,100-1

Tel.049-258-0019

発行 三芳町教育委員会

印刷 梅田印刷株式会社